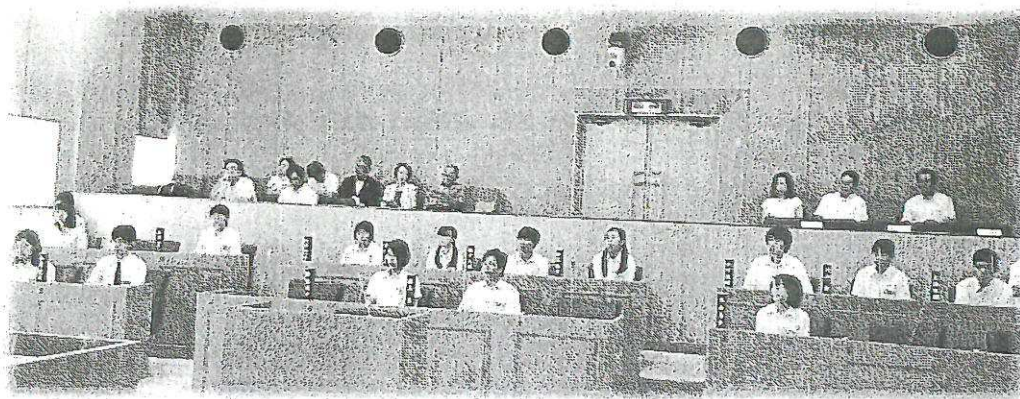


議会報告会

高校生・高等部生との意見交換会



平成29年8月

城陽市議会

目 次

I	参加者	
	[1] 応募された生徒	1
	[2] 城陽市議会議員	2
II	意見交換会事前説明会：平成 29 年 7 月 31 日午後 2 時 00 分	
	[1] 日程	3
	[2] 協議、決定した主な事項	4
III	意見交換会（グループ交流）：平成 29 年 8 月 21 日午後 2 時 00 分	
	[1] 日程	6
	[2] タイムスケジュール	7
	[3] 会議	8
	①議長あいさつ	8
	②学校紹介及び自己紹介	9
	③グループ別意見交換会・発表	10
IV	意見交換会：平成 29 年 8 月 21 日午後 3 時 30 分	
	[1] 議場に出席した生徒	20
	[2] 議場に出席した議員・職員	20
	[3] 議席図	22
	[4] 日程	23
	[5] 会議	24
	第 1 開会あいさつ	24
	第 2 高校生・高等部生による意見発表	
	・第 1 グループ	25
	・第 2 グループ	30
	・第 3 グループ	38
	第 3 閉会あいさつ	46

V 資料

[1]	実施に至る経過	49
[2]	開催概要	51
[3]	案内チラシ・配付資料等	52
[4]	参加者アンケート調査及び結果	53
[5]	議会報告会（高校生・高等部生との意見交換会）での 意見・要望について（報告）及び同（回答）	58
[6]	報道資料	67



出席者全員で

(平成 29 年 8 月 21 日撮影：4 階議場)

I 参加者

[1] 応募された生徒 (20名)



京都府立城陽高等学校

大	川	竜	也	さ	ん	(3年)
大	北	晃	子	さ	ん	(3年)
白	数	竜	也	さ	ん	(3年)
小	倉	達	矢	さ	ん	(2年)
奥	西	かれん		さ	ん	(1年)
川	井	なつみ		さ	ん	(1年)
竹	山	舞		さ	ん	(1年)
宮	崎	真白		さ	ん	(1年)



京都府立西城陽高等学校

斉	藤	桃	子	さ	ん	(2年)
田	尾	茜	音	さ	ん	(2年)
堀	土	大	地	さ	ん	(2年)
榎	島	笙		さ	ん	(2年)
丸	山	真	歩	さ	ん	(2年)
山	本	愛	子	さ	ん	(2年)
梅	原	望		さ	ん	(1年)
小	川	航	輝	さ	ん	(1年)



京都府立城陽支援学校 高等部

大	福	海	翔	さ	ん	(3年)
坂	梨	達	也	さ	ん	(3年)
屋	宮	昂	征	さ	ん	(2年)
澁	谷	華	奈	さ	ん	(2年)

[2] 城陽市議会議員（20名）

増	田	貴	議	長
村	田	圭一郎	副議	長
本	城	隆	議	員
大	西	吉	議	員
語	堂	辰	議	員
宮	園	昌	議	員
若	山	憲	議	員
畑	中	完	議	員
藤	城	光	議	員
相	原	佳代子	議	員
熊	谷	佐和美	議	員
土	居	一豊	議	員
乾		秀子	議	員
西		良倫	議	員
谷		直樹	議	員
小松	原	一哉	議	員
一	瀬	裕子	議	員
上	原	敏子	議	員
河	村	明文	議	員
奥	村	浩	議	員

Ⅱ 意見交換会事前説明会：7月31日 午後2時00分

[1] 日程

高校生との意見交換会事前説明会日程

平成29年7月31日 午後2時00分

委員会室

- 1 司会あいさつ
- 2 議長あいさつ
- 3 出席者自己紹介
- 4 地方議会の概要について
議会事務局から説明
- 5 意見交換当日の進め方、注意事項など
- 6 グループ別意見交換会(模擬)
グループごとのテーマの決定
 - ・住みよい、魅力あるまちづくりへの提言
 - ・地方議会及び議員に期待すること
- 7 議場案内
- 8 司会あいさつ(議場)

〔2〕 協議、決定した主な事項

○テーマ

- ・ 住みよい、魅力あるまちづくりへの提言
- ・ 地方議会及び議員に期待すること

○意見交換会のグループ

- ・ 高校生・高等部生を3つのグループに分け、議員も高校生・高等部生と同数のグループをつくる
- ・ 意見交換会に先立ち、高校生・高等部生、議員が集まり、それぞれの高校生・高等部生ごとに、議員グループの担当を決める
- ・ それぞれのグループごとに、進行役の議員を1人置く

第1グループ：小松原議員



第2グループ：乾議員



第3グループ：土居議員



- ・ それぞれの高校生・高等部生と担当する議員グループが合同で、意見交換会の質問内容等について自由に話し合い、質問や答弁の概要を理解しあう

○意見交換の方法（意見交換会当日）

- ・ 高校生・高等部生は、自席で発言する
- ・ 高校生・高等部生の質問等に対応する答弁等の方法は、それぞれの担当する議員グループの判断による
- ・ それぞれのグループごとの所要時間は、1グループ20分を目安とするが、質問回数は制限しない
- ・ 時間内で高校生・高等部生全員が発言できるように配慮する
- ・ 発言は簡素に行う
- ・ 当日の司会は議会活性化推進会議の委員長（本城議員）が務め、発言は全て司会の許可のもとに行う



Ⅲ 意見交換会（グループ交流）： 8 月 21 日 午後 2 時 00 分

[1] 日程

高校生・高等部生との意見交換会日程

平成 2 9 年 8 月 2 1 日午後 2 時 0 0 分

委員会室・議場

- 1 議長あいさつ
- 2 学校紹介及び自己紹介
- 3 本日の進め方、注意事項など
- 4 グループ別意見交換会・発表
- 5 高校生・高等部生による意見発表
- 6 閉会あいさつ

[2] タイムスケジュール

8月21日(月) 議会報告会 ～ 高校生・高等部生との意見交換会 ～ タイムスケジュール

14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30
←→ 議長あいさつ(14:00～14:10) ←→ 学校紹介・自己紹介(14:10～14:25) (議員紹介は写真つき名簿を配付) ← → ・意見交換会 (14:30～16:30) ①グループ交流(14:30～15:20) @委員会室・第4会議室・議場ロビー ②意見発表(15:30～16:30) @議場					

[3] 会議

① 議長あいさつ

今回、若者の意思を反映した施策の展開を検討することを目的として、このような場を設けさせてもらいました。

是非、みなさんの忌憚のない意見を遠慮なく議員にぶつけていただき、有意義な時間となることを期待いたします。

せっかくの機会ですので、この場をお借りして、「城陽市議会の概要」について、簡単ではありますが、説明をさせていただきます。

市議会の役割は、日本国憲法に定められ、特に「地方自治」として一章を設け、地方自治法にも具体的に規定されています。

議会は、議決機関と呼ばれる一方、市長は、執行機関と呼ばれています。これを二代表制と呼び、市議会と市長とは市政を進めていく「車の両輪」として、互いの立場から市民生活の向上に努めています。

城陽市議会には4つの常任委員会のほか、議会運営に関する事項を専門的に審査する議会運営委員会、議会の運営等にかかる改革、改善に関する事項及び城陽市議会基本条例の検証に関する事項を所掌する議会活性化推進会議等があります。

議会は多数決議決であり、議決を得るためには、過半数の賛成が必要となります。

議会は、議員の定数の半分以上の議員が出席しなければ、会議を開くことができませんし、会議の開催時間は、午前10時からと定めています。

以上、議員は、法に基づいて、市の施策をチェックし、行政に反映させていくという役割を担っています。



② 学校紹介及び自己紹介
【学校紹介・自己紹介】



城陽支援学校



城陽高等学校



西城陽高等学校

③ グループ別意見交換会・発表

(第1グループ)

高校生・高等部生グループ(5名)					議員グループ(6名)		
城陽高校	1年	奥西かれん	さん		自民党議員団	小松原一哉	議員
城陽高校	1年	○川井なつみ	さん		城陽絆の会	大西 吉文	議員
城陽高校	2年	◎小倉 達矢	さん		市民ネット城陽	相原佳代子	議員
西城陽高校	2年	山本 愛子	さん		公明党議員団	熊谷佐和美	議員
城陽支援学校	2年	澁谷 華奈	さん		日本共産党議員団	西 良倫	議員
◎: グループリーダー ○: サブリーダー					自民党議員団	奥村 文浩	議員

・グループ別意見交換会



委員会室





○小倉達矢さん 第1グループの方で話しました結果は、話の軸といたしましては、城陽のことを、内外ともにアピールするにはどうしていけばいいのかというのが話の軸で、そこからいろんなことが枝葉わかれて、展開しているような感じになっております。

まず、内外ともにアピールするにはどうすればいいのかです。城陽って、

見ていきますといろんなものがあると思うんですね、やっぱり。例えば、ここに書いてますけど、文化財もそうですし、特産物とかも、それからゆるキャラとかも。例えば、いろんなものがあると思うんです。アピールしていくテーマのようなもの、種となるようなものは、それこそ、言い方悪いかもしれませんが、ゴロゴロ転がっているといえますか、いたるところに種はあると思います。

やはり特産物一つとっても、そうだと思います。例えば、金糸のこともありますし、青谷の梅もありますし、イチジクというのもあります。それを内外ともに、こんなおいしいものがあるんだというのを外にアピールしていくにはどうすればいいかです。

そして、城陽には素晴らしい文化財があると思います。文化財というのは、やはり生かされてこそ文化財ではないかと私は思います。例えば、重要文化財の指定を受けててとか、国宝の指定を受けてて大きい博物館にありますけど、日ごろ見ることができませんとなったら、文化財としての価値はあったとしても、本当に役割を果たしているのかということなんですね。そこから人と人が繋がっていくとか、観光客を新たに城陽って、こんなところなんだというのを知ってもらうというような一つのきっかけになる文化財であるとか、特産物、ゆるキャラを通してなっていくのではないかと思います。

そして、いかにどれほど素晴らしい特産物があっても、どんなに素晴らしい文化財があっても、やはりまずはインフラです。うちはこんなに素晴らしい文化財があるんです、でも道路整備はされてませんとなったら、それこそ、そんなところこうと思わないじゃないですか。なので、やはりちゃんと道路をつくる、そして子どもが安心して歩けるような、例えば夜遅くに歩くとなっても安心して歩ける、街灯がある、道が

舗装されている、そういうような感じのまちづくりをしていくべきではないかという話をしました。

そして、これも一つの特徴なのかもしれませんが、フレンドリーな方が多いと思うんです。朝、歩いててすれ違いざまに、おはようございますと言ったら、おはようみたいな感じで、笑顔で返してくださいます。僕と川井さん、同じ精華町というところに住んでるんですけど、あんまりそういうのいないんですね。城陽って、やっぱりいいところなんだなと、ここでも思うところがあります。

そしてインフラ整備も先ほど申し上げましたが、大事なのが緑化だと思うんですね。みなさんご存知かと思うんですけど、グループの方には重複して申し訳ないんですけど、温故知新という言葉があります。古きを訪ね、新しきを知るでございますけど、新しいものが大事。けれども文化財とか伝統ある特産物、ゆるキャラ、こういうものをベースにしながら新しいものを取り入れていったら、それこそ観光客も増えたりだとか、ここに住んでみたいと思うような方もふえるのではないかという意見が出されました。

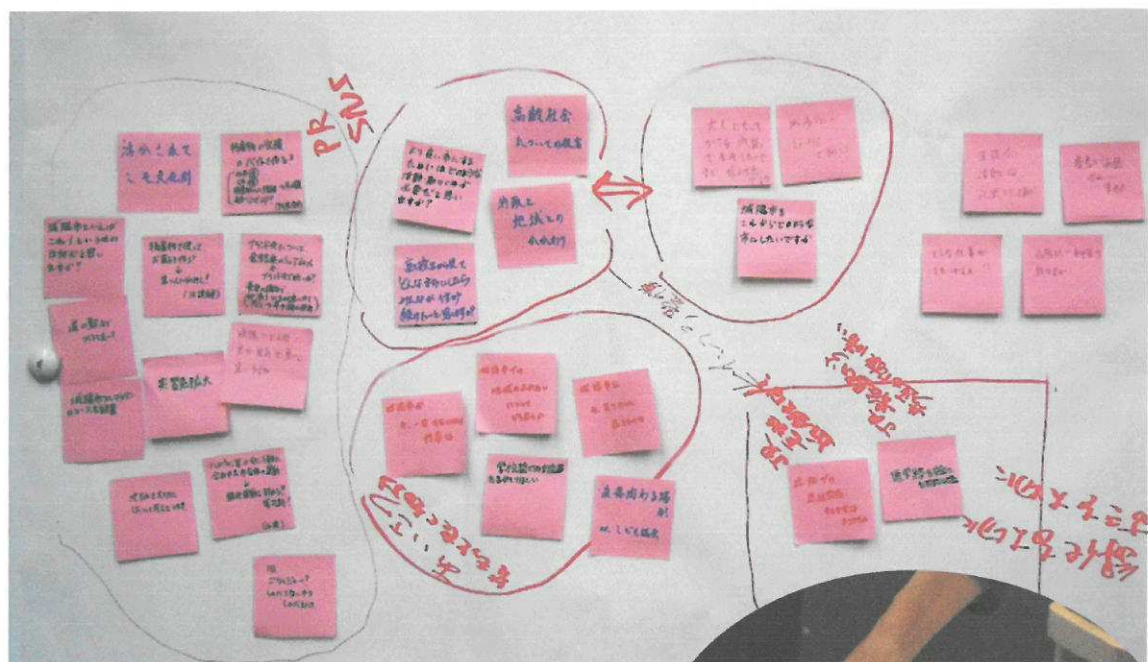


・進行役議員（小松原議員）より

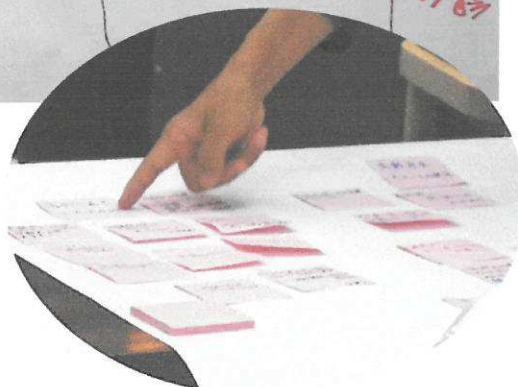
1グループでは、高校生の皆さんに多くの発言機会をもってもらおうと、まず市や市政に対しての思いや意見を簡潔に付箋に書いてもらいました。多く出てきたものは、特産物・ブランド化・道の駅・イベントなど地域の活性化に関わるフレーズと、環境問題やインフラ整備に関わることや地域コミュニケーションに関わることでした。

次に、これらに関して意見交換をするなかで、地域活性についてはSNSを利用したPRをしてみてもどうか？など、具体的な提案が出てきたり、身近な通学路や交通機関・インフラの整備の必要性を感じながらも、緑化をはじめ環境問題にも高い関心を持った意見も出ました。

また、歴史と文化財や金銀系などの伝統技術・特産品を生かしつつ、新しいものも取り入れて行くと良いPRが出来るなど、温故知新と言うフレーズで締めくくれるように、積極的な意見も出てきて城陽市の未来を真剣に考えている高校生の姿勢が感じられました。



意見交換に用いた模造紙



(第2グループ)

高校生・高等部生グループ（5名）					議員グループ（6名）			
城陽高校	1年	○竹山	舞	さん	公明党議員団	乾	秀子	議員
西城陽高校	1年	小川	航輝	さん	日本共産党議員団	語堂	辰文	議員
西城陽高校	2年	田尾	茜音	さん	市民ネット城陽	畑中	完仁	議員
西城陽高校	2年	丸山	真歩	さん	自民党議員団	谷	直樹	議員
城陽支援学校	3年	◎大福	海翔	さん	市民ネット城陽	上原	敏	議員
◎：グループリーダー ○：サブリーダー					日本共産党議員団	河村	明子	議員

・グループ別意見交換会



議場ロビー



・発表



○大福海翔さん 第2グループで
まとめましたことは、まず道路。
道路のことで通学路や歩道が狭い
ということが問題に、まず一つ問
題にあがっていました。その次に
もう一つあがっていたのが、青谷
の梅のことで、海外へのアピール
を考えているということで、青谷

の梅は作る人が少ないということでした。

○竹山舞さん 青谷の梅は作っている人が少ないということで、知名度もあんまり上
がりませんが、海外に対して梅を加工して何か作るということを考えています。

○大福海翔さん 駅前周辺を活性化することや都市整備をすることで、人がふえると
いうことも考えているということで、アウトレットの建設は交渉中ということです。



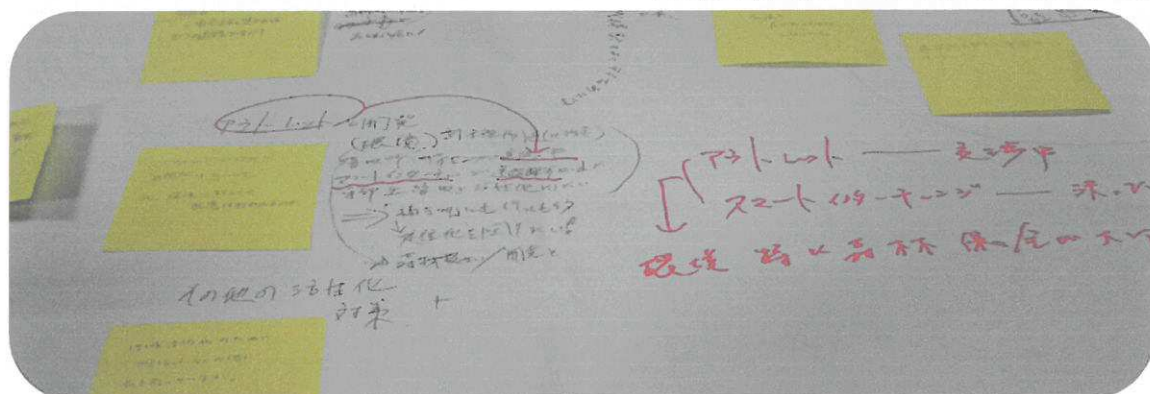
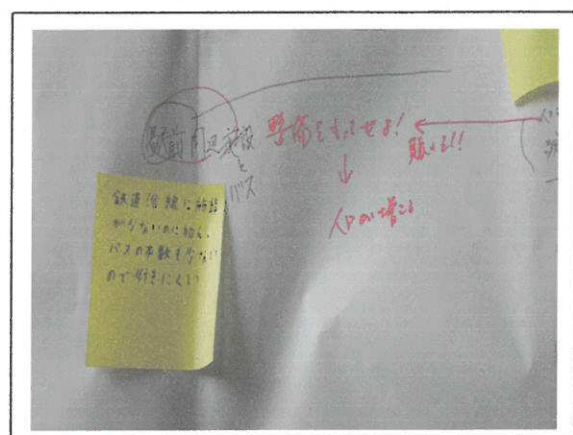
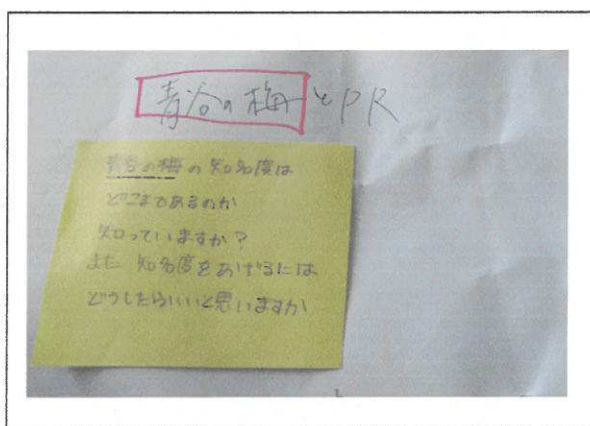
・ 進行役議員（乾議員）より

2グループの意見交換は、まず自己紹介から始め、他校との交流を希望していた支援学校の生徒がグループリーダーに、城陽高校の生徒がサブリーダーに立候補され決まりました。初めは、緊張した様子の生徒さんでしたが、付箋に自分の意見を書いて発表し合う中で、少しずつ表情が和らぎました。

普段歩いている通学路、例えば富野小学校前の丁字路は交通量が増えて危険であったり、通学の時に利用している駅の利便性についての疑問や意見（エスカレーターの設置）が出ました。

また、城陽市外から通学している生徒さんは、自分の住んでいる街と比べて駅前に公共施設が少なく、市内のバスの本数も少なく移動が不便ではないかとの意見もありました。

城陽市が取り組んでいる子育て世代向けのイベントや観光についても関心が高く、特に青谷の梅の海外展開やブランド化を進めるために『どのようなPRで知ってもらえるか』意見を交換しました。



意見交換に用いた模造紙

(第3グループ)

高校生・高等部生グループ（4名）	議員グループ（5名）
城陽高校 1年 宮崎 真白 さん	城陽絆の会 土居 一豊 議員
西城陽高校 2年 ○斉藤 桃子 さん	会派を構成しない議員 村田圭一郎 副議長
西城陽高校 2年 堀土 大地 さん	市民ネット城陽 宮園 昌美 議員
西城陽高校 2年 ◎榎島 笙 さん	日本共産党議員団 若山 憲子 議員
◎：グループリーダー ○：サブリーダー	自民党議員団 一瀬 裕子 議員

・グループ別意見交換会



第4会議室

・ 発表



○横島笙さん 第3グループは、住みよい魅力あるまちづくりということで、話し合いをした結果、城陽市民が多いということもあるんですけど、住みよい城陽とはどういうものかについての話がよくできました。まず、駅まわりや木津川運動公園など、人が集まる場所に街灯が少ないということで、明るくないということで、魅力あるまちということでも、明るくないと魅力はない、

魅力的に感じられないということで、街灯は必要だと思うんです。駅まわりの治安が悪いということもあって、街灯をつけてほしいということもありますし、木津川運動公園では、よく警察が来るということで、街灯をつけてほしいということで街灯整備をしてほしいなという意見が多くあがりました。

そして、城陽市といったらこれというもので金銀糸や梅、イチジクなどがあがりますけど、自分が近いということもあるんですけど、木津川運動公園というのは大々的に使っていかなくてはならないと思うんです。そのためには、木津川運動公園に行くためのバスの、バス通ってないですけど。バスをふやす、バスを通るようにして、木津川運動公園というものを広く知ってもらうことも大事なんだと思うんです。それで、その他にも青谷に行くのにさんさんバスが通ってない、さんさんバスを広い範囲で経由していかなくてはいけないなと思いました。

自分が自転車で通学してるんですけど、カーブミラーやら、信号がついてないところがある。標識が雨で削れていて見えなかったり、ここに必要だなっていうところになかったりするところがあるんですけど、そういった危ないところが、多々見られると魅力あるまちではなくなってしまうので、そういったところも直していったほしいなという意見もありました。

また、大きな施設といったら文パルがあるんですけど、文パルには勉強スペースがないということで、高校生としては勉強もしたい。文パルに勉強スペースをつけてほしいなという意見や、また吉本やいろいろなイベントをよくしてるというのは、城陽市民であればわかるんですけど、それを他がわかっているかというと、そうではないかもしれないので、SNSやチラシなどを使った告知も新たな手段として広く使えていけたらいいなと自分たちも思いました。

そしてまた道幅が狭い場所がありまして、これもまた自転車を使っている自分たちの意見なんですけど、危ない。車との距離が危ないという意見も多々あったので、道幅を広くしてほしいなという意見もありました。

また、第1グループや第2グループの意見も少々お借りするんですけど、梅やイチジクなどの加工食品というのも、もっと広く作って外にアピールできたらいいなという意見もありました。

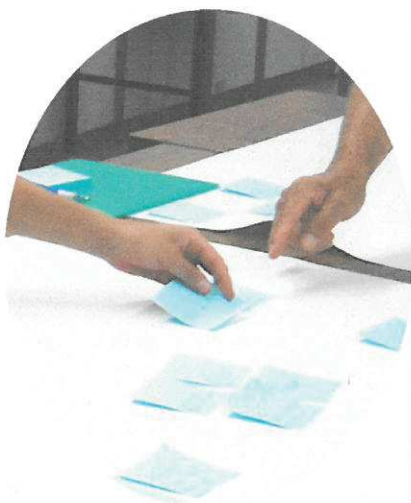
・進行役議員（土居議員）より

第3グループは、「住みよい魅力あるまちづくり」をテーマに一人ひとりが考えている思いを、カードに記入していただき、そのまとめを高校生自ら行いました。

記入したカードを要約すると「街灯の整備」「格差がある6駅」「バス路線整備の不足」「狭隘な市道の整備」「文パルや木津川運動公園の活性化」「城陽の魅力発信」等、多様な意見が出ていました。

まとめをする意見交換の中で、駅の周りや木津川運動公園など人が集まるところで暗いところがあり、明るくしなければ市外から来る人は不安な気持ちになるのではないのか。そのため、街灯整備を求める積極的な意見が多くありました。

また、通学している高校生だから気付く「狭隘な道路の整備」「文パル内部への勉強スペースの設置」「カーブミラーの設置」等、高校生の立場で城陽市を住みよい魅力あるまちにするために真剣に考えている姿勢に感動しました。



意見交換に用いた模造紙

Ⅳ 意見交換会：平成 29 年 8 月 21 日 午後 3 時 30 分

[1] 議場に出席した生徒（14 名）

（城陽高等学校）

奥	西	かれん	さ	ん
小	倉	達 矢	さ	ん
川	井	なつみ	さ	ん
竹	山	舞	さ	ん
宮	崎	真 白	さ	ん

（西城陽高等学校）

小	川	航 輝	さ	ん
齊	藤	桃 子	さ	ん
田	尾	茜 音	さ	ん
堀	土	大 地	さ	ん
槇	島	笙	さ	ん
丸	山	真 歩	さ	ん
山	本	愛 子	さ	ん

（城陽支援学校）

大	福	海 翔	さ	ん
澁	谷	華 奈	さ	ん

[2] 議場に出席した議員・職員

増	田	貴	議 長
村	田	圭一郎	副議長
本	城	隆 志	議 員
大	西	吉 文	議 員
語	堂	辰 文	議 員

宮	園	昌	美	議	員
若	山	憲	子	議	員
畑	中	完	仁	議	員
相	原	佳	代	議	員
熊	谷	佐	和	議	員
土	居	一	美	議	員
乾		秀	豐	議	員
西		良	子	議	員
谷		直	倫	議	員
小	松	一	樹	議	員
一	瀨	裕	哉	議	員
上	原		子	議	員
河	村	明	敏	議	員
奥	村	文	子	議	員
			浩	議	員

(事務局職員)

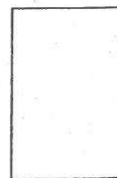
萩	原	洋	次	局	長
谷	口	浩	一	次	長
與	田	健	司	係	長
樋	口	友	彦	係	長
澤	田	扶	美	臨時職員	



[3] 議席図

議 席 図

11 しほ 谷 奈 か 華	12 うめ 梅 原 のぞみ 望	13 おく 奥 西 かれん	14 かわ 川 井 なつみ	15 みや 宮 崎 ま 真 白	16 ほり 堀 士 だい 大 地	17 た 田 尾 あか 茜 音	18 お 小 川 こう 航 輝	19 たけ 竹 山 まい 舞	20 お 大 福 かい 海 翔
1 おく 屋 宮 こう 昂 征	2 やま 山 本 あい 愛 子	3 お 小 倉 たつ 達 矢	4 おお 大 北 あき 晃 子	5 さい 芥 藤 もも 桃 子	6 まき 槇 島 せい 笙	7 しら 白 数 たつ 竜 也	8 まる 丸 山 ま 真 歩	9 おお 大 川 たつ 竜 也	10 さか 坂 梨 たつ 達 也



[4] 日程

議会報告会（高校生・高等部生との意見交換会）議事日程

平成29年 8月21日（月曜）午後 2時00分開議

第1 開会あいさつ

第2 高校生・高等部生による意見発表

（第1グループ）（7人）

- | | | | | | | |
|-----|---------|---------|---------|----------|----|-----|
| (1) | おく
屋 | みや
宮 | こう
昂 | せい
征 | さん | ※欠席 |
| (2) | しぶ
澁 | たに
谷 | か
華 | な
奈 | さん | |
| (3) | お
小 | ぐら
倉 | たつ
達 | や
矢 | さん | |
| (4) | おく
奥 | にし
西 | かれん | | さん | |
| (5) | かわ
川 | い
井 | なつみ | | さん | |
| (6) | やま
山 | もと
本 | あい
愛 | こ
子 | さん | |
| (7) | うめ
梅 | はら
原 | | のぞみ
望 | さん | ※欠席 |

（第2グループ）（7人）

- | | | | | | | |
|-----|---------|---------|---------|---------|----|-----|
| (1) | おお
大 | ふく
福 | かい
海 | と
翔 | さん | |
| (2) | さか
坂 | なし
梨 | たつ
達 | や
也 | さん | ※欠席 |
| (3) | おお
大 | かわ
川 | たつ
竜 | や
也 | さん | ※欠席 |
| (4) | たけ
竹 | やま
山 | | まい
舞 | さん | |
| (5) | た
田 | お
尾 | あか
茜 | ね
音 | さん | |
| (6) | まる
丸 | やま
山 | ま
真 | ほ
歩 | さん | |
| (7) | お
小 | がわ
川 | こう
航 | き
輝 | さん | |

（第3グループ）（6人）

- | | | | | | | |
|-----|---------|---------|---------|---------|----|-----|
| (1) | おお
大 | きた
北 | あき
晃 | こ
子 | さん | ※欠席 |
| (2) | しら
白 | す
数 | たつ
竜 | や
也 | さん | ※欠席 |
| (3) | みや
宮 | ざき
崎 | ま
真 | しろ
白 | さん | |
| (4) | さい
斉 | とう
藤 | もも
桃 | こ
子 | さん | |
| (5) | ほり
堀 | し
士 | だい
大 | ち
地 | さん | |

第3 閉会あいさつ



○本城隆志議員 ただいまの出席生徒数は、14名であります。

屋宮昂征さん、大北晃子さん、白数竜也さん、大川竜也さん、坂梨達也さん、梅原望さんからは欠席の連絡を受けております。それでは、これより、高校生・高等部生による意見発表会を開会いたします。

○本城隆志議員 日程第1、開会あいさつを行います。

増田貴城陽市議会議長より、開会にあたり、皆さまにご挨拶を申し上げます。

増田議長、よろしくお願いいたします。

○増田貴議長 改めまして、皆さん、こんにちは。

グループ討論、ミーティング、どうでしたかね。時間のほうがなかなか十分じゃなかったと思いますけれども、いろんな形で、私も3グループ回らせていただきまして、活発な意見というか、そういった意見が出されたと思います。そして最後のグループミーティングの中の総括というか、そういったものもきれいにまとめられてやっていただいた、このように思います。

さて、いよいよこれから皆さんのほうが、それぞれのテーマで質問をしていただくわけでございます。先ほども話しましたように、当初は20名の方でございましたけれども、14名の方が立たれるわけでございます。この議場で、さまざまな内容、市民の皆様から、また皆さんが独自で考えられましたそういった提案について行政に対して訴えるわけですが、今回は各議員がそれぞれ皆様のためにこういうふうな形で返事をするわけでございます。

皆様からいただきました、今回の議会の中で、本当に真剣な討論とか、真剣に考えていただきまして、城陽市のさまざまな問題点、それから身近な問題点について議論というか、質問をしていただくわけでございます。それらにつきまして、我々活性化委員会につきましても、もう本当に十二分に真摯に受けとめまして、これからの政策に努めていきたいと。決して無駄にならないような形で議論していくつもりでございます。

また、議員におきましても各皆様から出されましたそういった質問につきましては、



市長のほうにもやはり訴えれるところは訴えてやっていきたいと、大切に扱いたいと、このように思います。

本番ということに入りますけども、ひとつよろしくをお願いします。

それから皆さんの標柱、実はこの活性化委員長であります本城委員長が手書きでされた標柱でございますので、それをご紹介させていただきたいと思います。

それでは、よろしくお願いします。

○本城隆志議員 日程第2、高校生・高等部生による意見発表を行います。

まず、第1グループの高校生・高等部生の意見発表を行います。

第1グループの高校生・高等部生及び第1グループの担当の議員は、まずご起立ください。

[起立・一礼]

○本城隆志議員 それでは、澁谷華奈さん、小倉達矢さん、奥西かれんさん、川井なつみさん、山本愛子さんの順に発表お願いいたします。

なお、本日欠席の屋宮昂征さん、梅原望さんの発表は、澁谷華奈さん、山本愛子さんよりお願いいたします。

【第1グループ】



○ 澁谷華奈さん 失礼します。城陽支援学校生徒会本部書記の2年、澁谷華奈です。

住みよいまちづくりのために私は、山城青谷駅から学校までの道を安全にしてほしいです。木の枝が長くて歩きにくいし、横断歩道がなくて渡るのに危ないところもあります。また、車とぶつかりそうなくらい歩道が狭いところもありますし、街灯が少ないので夜は危ないです。ですので通学路を安全にしてほしいです。

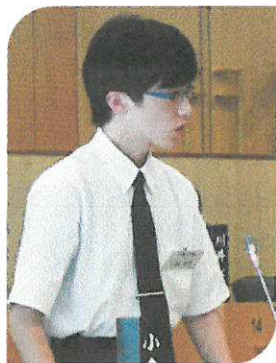
続いて、きょう欠席している屋宮君の意見を述べさせていただきます。



城陽市議会議員の皆さんにお願いがあります。城陽支援学校では流通サービスの授業で清掃活動などを行っているのですが、もっと活動の場をふやしたいので、ぜひ市の施設を清掃させてほしいです。

また、私たちは企業就労を目標に頑張っていますが、実習させてくれる会社は限られているのが現状です。市のほうから雇用の推進の呼びかけをしてもらうなど、実習先拡大のご協力をよろしくお願いします。

○小倉達矢さん 高いところから失礼いたします。城陽高校から参りました2年生の小倉達矢です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



まず私のほうから質問をさせていただきたいことがございまして、それはまず、城陽市には歴史民俗資料館というものがございます。しかし、これは余り知られていないというのが現状だと思っております。城陽市には先ほどから申し上げておりますとおり、すばらしい文化財、そしてすばらしい歴史的遺産があると思います。しかし、この民俗資料館が余り知られていないというのは、先ほどから申し上げておりますとおり文化財が生かされていないのではないかと思います。確かにこんな文化財があります、それだけを知るというのではなくて、じゃあ、なぜそこにその文化財があるのか、どのような経緯でその歴史的遺産ができたのかというのを知っていくというのが本当の学習のだいご味なのではないかと個人的には思っております。なのでまず、城陽市のほうから、知られるためには例として、どのようなことをしているのというのを教えていただきたく存じます。よろしくお願い申し上げます。

○奥西かれんさん 城陽高等学校1年、書記の奥西かれんです。よろしくお願いします。

古墳が城陽市にあると思うのですが、古墳へ行く人が余りいません。一部の学校では行事として行くところもあるようですが、そのほかの学校でも行事に取り入れてはどうでしょうか。



○川井なつみさん 城陽高等学校1年生の川井なつみです。

近鉄寺田駅の周辺整備はどうなっているのか現状を知りたいと思っております。そののところよろしくお願いいたします。

○山本愛子さん 西城陽高校2年、山本愛子です。今回、梅原望くんの分と合わせて質問させていただきます。

まず、城陽市のPRについてです。大きなイベント、例えば産業まつりなどのイベントがあっても広く知られないまま終わってしまっていると感じるのですが、PRのためにどのようなことを行っているのか教えてください。



もう一つの質問行きます。公共交通機関についての質問です。城陽市内の駅周辺環境は、駅によって大幅に異なっていると感じます。例えば富野荘などは街灯が少なく、暗いイメージです。さらにたむろする人などがいて、とても怖いと感じている人が多いです。そのような状況を改善する策を、計画は何かございますか。

○本城隆志議員 第1グループの皆さんから意見を伺いました。

それでは、第1グループの各議員の担当の皆さん、答弁をお願いいたします。

○小松原一哉議員 まず登下校の道が狭いということで、支援学校の通学路のことだと思っておりますけども、JR山城青谷駅から学校までの道が大変狭くて、交通量も多い。そして夜になると暗いので街灯をつけてほしいというご要望だと思います。それについてご答弁いたします。

道路の、例えば拡幅とかそういうことは、なかなかすぐにはできない問題ではあります。例えば街灯については、学校とか、あとPTAからの要望書を市の管理課に出していただきまして、要望を上げていただきたいと思います。そういうことに関しましては私たち議会のほうでも十分に後押しさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○大西吉文議員 それでは、小倉達矢さんのご質問に対してお答えしたいと思います。

まず事前にいただいた資料では、議員になりたてのころの初心や昔と現在の具体的な変化というようなこともございましたけども、これは割愛されましたので、きょうおっしゃいました歴史民俗資料館、この活用方法についてお答えしたいと思います。



それは先ほども第1グループでいろいろご議論いただきましたように、今後はSNSの活用等行政側に強く申し入れまして、できるだけ行政側のPRが円滑に、スムーズにいくように頑張りたい、このように思っております。

それと公共交通機関についてでございますが、先ほどの第1グループの会議でもございましたように、富野荘駅周辺の街灯が暗いということでございますので、これも改めまして行政側にしっかりと要望して、皆様方のご期待に応えるように頑張りたいと、このように思っております。

○奥村文浩議員 支援学校の就職のことについてですけれども、企業というのはすごくたくさんありまして、今、支援学校の就職については、もう先生が企業を回って、一つ一つ聞いて回るといようなことを、そういう努力をずっと続けられてると思うんですけれども、やっぱり非常に多くの企業を回るといのは、もう学校だけではなかなか難しくなっていくと思うんです。そういったところはやっぱり行政も含めた仕組みづくりをやっていかないといけないと思います。情報の共有化をして、そしてその中でほかの支援学校とも協力して就職活動、どこが一体就職できるのかといようなところを探していくといような、そういった仕組みづくりをしていかないといけないと思っています。

○相原佳代子議員 それでは、私からお二方の質問で答弁させていただきますね。



先ほど屋宮さんかな、城陽支援学校の生徒さんの活動する場を広げてほしいということをおっしゃってましたよね。それについてなんですけれども、流通サービスの授業で清掃活動なんかをされている。今現在、青谷のコミュニティセンターであるとか、中村会館であるとか清掃していただいていると思いますけれども、やっぱりその清掃

の場をこれからも広げていただけるように、地域の青谷初め、また城陽市内で多く活躍していただけるようにこちらからも担当の福祉であるとか、そういうところに声かけさせていただきまして、皆さんが活躍しやすいようなそんな城陽市のまちづくりを進めていきたいというふうに思ってます。

それと、奥西かれんさんから質問がありました古墳のまち城陽をもっとPRして、小学校だけじゃなくて、中学校とか高校とか広げていって皆さんに知ってもらったら

どうかというようなこともあったかと思いますが、これにつきましては、城陽市はやっぱり古墳のまち城陽ということでPRもしているところでもありますし、芝ヶ原古墳、皆さん小学校のときにも行かれたかなというふうに思いますけれども、あれは卑弥呼の時代にできたものですよね。そういう古墳もあります。市内では小学校のときに、小学校3年生で市内めぐり遠足もしているし、小学校6年で歴史民俗資料館にも行ってもらったり

しています。やっぱり城陽のまちのそういう歴史を知ってもらって、そして城陽のまちを好きになってもらうために、そういった古墳の勉強



も小学校、中学校、そしてまた高校と連携して取り組んでもらえるように教育委員会のほうにも申し伝えたいと思います。

○西良倫議員 山本さんでしたかね。産業まつりとかもっと広報すべきだという形がありましたけども、市のほうも一軒一軒のおうちに漏れなく広報紙を届ける、こういうことやるよということを届ける努力をしてますので、まずそれが1点だと思います。

それとイベントの中身を充実させるということへの努力も、実行委員会でしていつてることだと思います。

それとやはり祭りそのものに市民が参加する、一人でも多く参加するということが大事だし、参加したらその感想とかを周りに広げる、産業まつり、こうだったよということを伝えていくということができればなというふうに思います。

それときょうの分科会でも出ましたが、SNSの活用、特に若い人らに向けてのことを努力していけば、若者参加も広がるんじゃないかなというふうに思っています。

○本城隆志議員 もう一つ質問したいようなことがありますか。少し時間ありますが。

○小倉達矢さん 少しだけ時間があるようですので、単刀直入に質問をさせていただきます。きたく存じます。

本当に僭越な質問かもしれない、ぶしつけな質問かもしれないんですけども、議員になりたてのころの抱負ですとか初心というものをお教えいただきたく存じます。といいますのも最近メディアで秘書に暴行、暴力を働くですとか、罵声を浴びせるというようなものをメディアで見えておりまして、議員さんってどんな方なんだろうというようなことを思っておりますので、初心など教えていただきたく存じます。よろし

くお願いします。

○大西吉文議員 先ほども申し上げましたけども、議員になりたてのころの初心ですね。それから今テレビ等で放映されてるような議員方の態度、それをどのように思うかというお話でございますが、私は最初、議員にならせていただいたときから今も、初心の気持ちは変わりません。すなわち市民に選ばれてるわけですから、市民のためにどう奉仕させてもらうか、これが第一の議員の課せられてる使命じゃないかなと、それでやってます。だから先ほども富野荘駅のことでもございましたけれども、あそこでも非常に防犯上悪うございましたので、カメラを設置したり、いろいろと方策は打ってまいったと、そういうことでございます。

○熊谷佐和美議員 初心も現在も変わりはありません。市民の皆様には何かお役に立てることがあれば何でもやらせていただきたい、そういう思いで日々努力しております。

○本城隆志議員 ありがとうございます。

第1グループの意見の交換会、これで終わりたいと思います。

○本城隆志議員 第2グループの高校生・高等部生及び第2グループ担当の議員は、ご起立ください。

〔起立、一礼〕

○本城隆志議員 それでは、大福海翔さん、竹山舞さん、田尾茜音さん、丸山真歩さん、小川航輝さんの順に発表してください。

なお、本日欠席の坂梨達也さん、大川竜也さんの発表は、大福海翔さん、竹山舞さんよりお願いします。

【第2グループ】

○大福海翔さん 失礼します。城陽支援学校生徒会本部、生徒会長の3年、大福海翔です。

住みよいまちづくりのために、僕は障がいを持つ人のことをもっと知ってほしいと思います。そのためには学校間での交流やこの意見交換会のようにお互いのことを知り、学べる機会がふえたらいいと思います。

僕がそう思う理由は、ネット上で中傷や偏見の言葉をよく見かけるからです。



それにもう一つは、障がい者だからだめとか、これはできないなどと、それだけで悪い判断はしてほしくないと思うからです。昨年の相模原での障がい者施設の殺傷事件を風化させてほしくないのと、一人でも多くの人に僕たち障がいを持つ人の気持ちをわかってほしいと思います。交流を通してお互いを知ることから始まると思います。

続きまして、欠席の坂梨達也君の発表の意見を述べさせていただきます。



私は、中学校から陸上を始め、今でもさまざまな地域のマラソンなどの大会に積極的に参加しています。大会では走れる喜び、楽しさ、ランナーを応援してくれる皆さんへの感謝の意、そして達成感を味わうことができます。

私の提案は、城陽市にもフルマラソンのコースを設置してほしいです。城陽の町並みを堪能しながら走れる喜びをもっといろいろな人に味わってほしいし、将来全国的な大会までに発展できたら城陽市がさらに活性化すると思います。もしこれが実現したら、私はぜひこの大会で走りたいと思います。



○竹山舞さん 失礼します。城陽高等学校1年の竹山舞です。

障がいについて理解をするために各小学校、中学校で授業をしていましたが、理解できない部分もありましたので、動画にして説明していただくと理解しやすくなると思います。動画にすることは可能でしょうか。



続いて、本日欠席している大川竜也先輩の質問を述べさせていただきます。

城陽駅の階段を上り下りするのが大変なので、エスカレーターをつけることは可能ですか。

○田尾茜音さん 失礼します。私は、城陽市のPRについてです。小学生以下の子どもや小学生を対象としたイベントをふやしていけばどうかと思いました。例えば夏休みの自由研究にできるような体験のイベントだったり、城陽市ならではのイベントをやっていけばどうか。それを通して城陽市に魅力を感じ、転入者として子ども連れの家族が来てくれ



たりするのではないかと思います。今現在そういったイベント事を行うなどといった案はあるのですか。



○丸山真歩さん 失礼します。西城陽高校から来ました2年の丸山真歩と申します。

今回はアウトレットの誘致や再開発などについて経済的な発展は見込めると思うのですが、開発を行っていく上で環境に対してはどのような配慮を行うつもりでいるかを聞きたいと思っています。よろしくお願いします。

○小川航輝さん 西城陽高校の1年の小川航輝です。

僕は、公共交通機関の利便性を高め、人口増加につなげていくということについて今から提案したいと思います。

城陽市は、京都から5里、また奈良から5里という五里五里の里という交通の便のよさでPRしていると思いますが、鉄道沿線に施設が少なく、またバスの本数が少ないなど、どうしても通学、通勤に不便なのではないかと思います。現代社会では、若者が車も持つ人が少ないという現状や、男性だけでなく女性も職場を持つようになってきました。このような社会だからこそ公共交通機関の利便性について考えるべきではないかと思います。



このことを踏まえ、私は、城陽市に提案したいことが4つあります。

1つ目はバスの本数増加。2つ目はバス停の増加。3つ目はバスのルートの増加。4つ目は駅前開発。以上のことを提案したいと思います。

そしてなかなかこの個人発表では言えないことがたくさんあるので、畑中議員には答えてくれるとおっしゃったので渡したのですが、個人的に全員分に僕の自己調査したレポートがあるので、ちょっとお時間をもらえませんか。（「どうぞ」と言う者あり）

○本城隆志議員 それでは、第2グループの議員の皆さんから答弁をいただきます。よろしくお願いします。

○語堂辰文議員 大福さん、それから坂梨さん、そして竹山さん、まとめていいですか、坂梨さんのについてはちょっとほかの方に、マラソン関係ですので答弁していただきますけれども。いわゆる障がい者の問題、理解の問題、それから障がいの理解の問題、こういうことについて少しだけ答弁ということとさせていただきます。



ます。

皆さんが、現在支援学校の生徒さんにつきましては、当たり前のように思っておられますけれども、以前にはそういう学校がございませんでした。南いいですか、南京都病院には重度の障がいの方がお

られまして、寝たきりとかそういう方がおられました。その方については就学猶予・免除ということで学校に行けない状態がありました。しかし、それ昭和で言うたら悪いんですけど、58年ごろから準備をされて、そして支援学校という形で現在はなっていますけれどもその方々についても小学校1年生から、順にそういうふうにして、今現在では重心とそれから病弱と通学高等部ということで支援学校がされています。そういうふうにこれ歴史といいますか、すぐに障がいの方も教育が一般的にされるということではなかったということも見といていただきたいと思います。

その中で今の理解についてどうかということ、ご質問でございます。やはり今ありましたけど、きょうのような、またもっと広く学校間の交流ということ、とても大事なことだと思います。そのことが偏見を除いていくと思いますので。それはご提案いただいたとおりでと思います。また、見える化といいますか、動画による交流という提案がございました。これについても教育委員会サイドといいますか高校については大体府教委の関係なんですけれども、小学校、中学校については既にそういうこともされてる場面もございますけれども、交流教育ということでいろいろされておりますので、さらにそれを強化していただくということでしていただけたらと思います。本当によい質問していただきまして、ありがとうございました。

○河村明子議員 それでは、坂梨達也さんからいただきましたフルマラソンをという意見についてお答えさせていただきます。

城陽マラソンは、ご存じのとおり、10キロコース、5キロコース、3キロコースがありまして、来年の3月に開催される城陽マラソンが第35回を迎えるわけです。城陽マラソンは、実行委員会形式でして、主な管理は城陽市体育協会が管理しているということですが、第34回、ことしの3月に開かれた城陽マラソンは、参加者が2,254人で、過去で一番参加者が多かったというふうに聞いています。参加地域としては、北は北海道、南は岡山の方が来られてたというふうに聞いています。

そこでフルマラソンをということですが、毎回この実行委員会では、もっと長

いコースをできないかということとか、フルマラソンをということについては毎年議題に上がっているというふうに聞いています。マラソン愛好家がふえたことや、この城陽マラソンでも長い距離から定員に達していく、10キロから定員に達していくということですので、すぐには難



しいけども、課題をクリアしながらハーフとかフルとか実施できていけたらなというふうに考えているというふうに聞いています。

そこで、私たち議員の中にも走るのがすごく好きな議員がいますけども、ほかの地域での取り組みとか、あと市民の皆さん、また高校生の皆さんの意見をたくさん寄せていただいて、その皆さんの意見が反映できるような形で議員が調査研究し、提案できるように努力していきたいと思います。

○上原敏議員 失礼いたします。欠席の大川竜也さんのJR城陽駅にエスカレーターというご質問に対するお答えすべきところでございますが、その前に、当第2グループのグループ意見交換会のほうで、竹山舞さんから、城陽駅全般に関してどうすれば便利で利用しやすい駅になるかというご質問がございましたので、先にそちらからお答えさせていただきたいと思います。

城陽駅に関しましては、おりたところに食事するところがあって、遅くまであいてる買い物するところがあって、そして喫茶店があって、そして城陽駅の列車に関しましては複線化されて本数が多く、そして駅でおりたバス停にはバスの本数が多く、しかもいろんなところの路線があるという駅になるのが、大変便利な利用しやすい駅だというふうに思います。その中で当然階段にはエスカレーターもあるというのが利用しやすい便利な駅というふうに思います。というのが、どうすれば利用しやすい便利な駅になるかという私なりの思いでございます。

それをどう実現するかということですが、全部にお答えいたしますと時間が全然ないと思いますので、もともとの大川さんの質問でありますエスカレーターに関してお答えさせていただきます。

エスカレーターに関しましては、具体的に今のところ計画はございません。間違いないですね。ですが、全議員それぞれの立場で、あったほうがいいということは恐ら

く思っていると思ひまして、それぞれの立場で市に要望なり必要性は訴えていると思ひます。私もその一人でございます。

ですが、城陽市の駅は、城陽駅だけではございません。近鉄、ＪＲ合わせまして６駅でございます。６駅の中で城陽駅はエスカレーターはございませんが、エレベーターはございます。例えばエスカレーターもエレベーターも両方ない駅もございます。城陽市全体の取り組みとして今どれに、より力を入れて緊急に一番急いでやるべきかということは、正直この２０人の中でも意見が分かれるところでございます。私は私なりに城陽駅に近い議員として城陽駅の便利さを求めていくとともに、城陽市全体の優先度も含めましてしっかり考えて今後も議会活動で発言してまいりたいと思ひますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○谷直樹議員 私は、丸山真歩さんのご質問、アウトレットの誘致や再開発などは経済的な発展が見込めると思ふが、開発を行っていく上で環境に対してはどのような配慮が行われてるのかに対してお答えさせていただきたいと思ひます。



ご存じのように、今、城陽市では、平成３５年度の新名神の開通に向けて、これを大きなチャンスと捉えて、新市街地ですとか、あと青谷の白坂テクノパークとか、アウトレットの誘致、それと青谷の先行地区の物流ゾーンですとか、いろんなインフラ整備が計画されております。当然これをチャンスと捉え、これからの城陽市にとっては、この魅力発信をして人を呼び込むまちづくりを推進していくのがこれ大事だとこれは周知の事実でございますが、またその反面、おっしゃるように環境への配慮、これも重要だと思っております。

そのためにどうしていくかということなのですが、まず基本的に城陽市では、開発指導要綱の中で開発面積の３％の公園等の緑地といいますか、そういうようなところを設けなさいという指導要綱があります。それに基づいて事業者といろんな協議をしております。と同時に、この東部丘陵地等がこれからインフラ整備されていきますが、違法に破壊された保安林、これ復旧は国、府のほうで指導して、徐々に復旧されております。と同時に、あと緑の保全施設ですとか、大気汚染調査、それから地下水のモニタリング、あとＣＯ₂削減の意味で城陽市の分散型エネルギーインフラプロジェクト・マスタープラン策定といいまして、いわゆる太陽光ですとか、コージェネですとか、あとバイオマス発電とか、こういうような計画も今されておりますし、そのほか国や府と協議して環境保全にこれから努めていき、また事業者に対しても指導してい

くというようなことを聞いております。

そして一番基本的なことは開発に向けて地域の方々と協議して、どのようなまちづくりするかというのはこれからの課題だと思いますので、それに努めていきたいと思ひます。

○乾秀子議員 それでは田尾茜音さんからいただきました市のPRといういろいろについてお答えをいたします。



今、城陽市は、人口が7万5,000台になりまして、2060年代には4万人台になると言われてる、いつとき人口消滅都市と言われていたんですけれども。その中で私たちもぜひこちら、先ほどおっしゃった子育て世代の方にぜひ城陽市においでいただきたいということでたくさんの施策を提案をしております。

私たちが利用しております広報じょうようというのがあるんですけれども、どちらの市町村にもあると思ひます、広報は。月に2回、シルバー人材センターの方が自治会加入、未加入関係なく全戸に配布してくださってまして、その中には市からこのほかのお便りもいっぱい出してるんですね。その中で皆さんが平等に知っていただける情報が満載になってまして、ここに言っていたきました小学生以下の子どもさんを対象にしたイベント、また夏休みの自由研究、ちょうど夏休みが始まります前の7月号の広報にはいっぱい掲載していただいて、私もきのうちょっと見てまして、赤丸ほとんどつくぐらい小学生以下、小学生を対象にしたイベントがコミセン、6コミセンあるんですけれども、そちらのほうで実施されていますので、お申し込みいただけるようになっております。それで若い世代の方に来ていただきたい、その中で城陽市では最近子育て世代の包括支援センターが保健センターの中にできました。これは専門の相談員さんがおられます。

また、深谷幼稚園の跡に地域子育て支援センターができました。今、親子さんでレクリエーションなどして、とても楽しんでいただけてます。

また、市役所の中の子育て支援課、また民生委員さんなどがあそびのひろばなどを実施して小さい子どもさんをお持ちのお母さん方や保護者の方と一緒にイベントというか、楽しいことをされています。この子育て世代に対する施策をもうちょっと充実させていくというのが今の私たちの大きな課題だと思ひてます。

もう少しだけ済みません。城陽市ならではということなんですけれども、JCさんがされる秋花火、秋に花火が上がります。それから12月にはTWINKLE JOY Oといってイルミネーションが行われます。それから今までありますアイリスイン城陽、プラムイン城陽が、今度ロゴスさんという株式会社さんの指定管理になりますので、また違ったイベントなどを催していただけるようになると思いますので、ご期待いただきたいと思います。

○畑中完仁議員 まず、小川航輝さんの質問にお答えしたいと思います。

まず、私ども考えてなかったんですけど、この資料をつくっていただきまして、ありがとうございます。

皆さんが臨む姿勢がすごくこれで、小川さんのすごい姿勢が出てます。それに対して誠実に答えたいと思います。

まず、小川さんがおっしゃってることは、ここで議員の皆さん20人が全員言うてることなんです。ということは小川さんの話は、今、城陽市の中で一番大きな柱の問題で、一番充実さすべき問題であるということを私は認識しております。そして今おっしゃったように、少子高齢化、その中で買い物に行けへん、そして病院に行けへん、そういう人をどういう形でフォローしていくのか、そして若い皆さんの利便性を高めていくのかということ言えば、城陽市は3つの駅、JRと近鉄3つ、6駅があるんですよ。これはほかのまちではそんなないんですよ。まず、その原点も必要なんです。恵まれてるということと、そしてまた今、路線、バスが2路線がありますけど、その中でいろんな工夫をしてるんですけど、ただ、工夫をするんですけど、乗る努力、市民もそのバスに対して乗っていくということが必要です。というのは1つの路線をつくったときに皆さんが乗らなかったから廃止されたんですよ。そういうことも現実にあるので、これは市民と行政とバス事業者、皆さんが輪になってどういう形で物事をつくっていったら、それぞれがウイン・ウインの関係でしていくということで、最も大事な話です。

そしてこのことは、55人委員会といって皆さんの55人の市民が抽せんで選ばれて、大きく皆さんが議論した内容でもあります。そういう部分で言えば小川さんの意見をまたこの場で生かして、市長に伝えて、実現できるように頑張りたいと思いますので、よろしく。

○本城隆志議員 最後、一番熱のある答弁でしたけれども、20分という時間をどう守るか、答弁のほうの方が長ければ皆さんからの再度の質問がもらえないので、また全体の時間がありましたら皆さんからの質問受けたいと思います。

○本城隆志議員 次に、第3グループの高校生の意見発表に入ります。

第3グループの高校生及び第3グループ担当の議員は、ご起立ください。

〔起立・一礼〕

○本城隆志議員 それでは、宮崎真白さん、斉藤桃子さん、堀士大地さん、槇島笙さんの順に発表してください。

なお、本日欠席の大北晃子さん、白数竜也さんの発表は、宮崎真白さんよりお願いします。

【第3グループ】

○宮崎真白さん 城陽市立図書館があるんですけど、その城陽市立図書館の充実はどこまで考えているのですかということが聞きたいです。



そして本日欠席の大北先輩と白数先輩の質問を私がかかわって述べさせていただきます。



大北先輩の質問は、JR電車の複線化は難しいですが、バスを多くすることは可能ですか。

そして白数先輩の質問は、イルミネーションをよく冬にやりますが、そこのお店で青谷の梅をアピールするのはどうでしょうかというのが質問です。

○斉藤桃子さん 失礼します。西城陽高校2年の斉藤桃子です。

私は、人口問題について質問したいと思います。城陽市は、人口が減少している上、少子高齢化が進んでいると聞きましたが、人口の減少を食い止めるための計画はあるのでしょうか。また、具体的にどの年齢層の人々を狙って計画されているのか質問したいと思います。



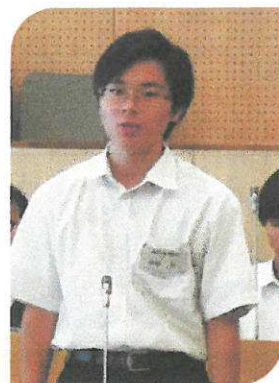


○堀士大地さん 失礼します。西城陽高校2年の堀士です。

私は、防災の現状について質問したいと思います。最近、日本各地で災害が頻発していて、城陽市もいつそういった災害に襲われるかわかりません。そこで城陽市の防災状況はどうかと私は思います。例えば避難所の安全性や水や食糧の備蓄はどれほどあるのか、またハザードマップは住民に周知されているのかが気になります。

○榎島笙さん 失礼します。西城陽高等学校2年の榎島です。

私は、観光について1つお聞きしたいと思います。城陽市にある自然環境や歴史的文化財などをしっかりとそのままにして、そのままに観光に利用することが大事だと私は考えます。また、そういった観光のアピールの仕方というのを何か考えてらっしゃるのかというのを聞きたいのと、また具体的にその内容は何かということをお聞きしたいです。よろしくお願いします。



○本城隆志議員 第3グループの高校生から意見発表がございました。

ただいまの意見発表に、質問に対して、第3グループ担当の議員の皆さんは順次答弁をお願いいたします。



○宮園昌美議員 私から宮崎さんの質問にお答えしたいと思います。

充実ということで、何を充実させたらええのかなというのはなかなか難しいんですけども、一応ハード的には増刷とか、市民がどのくらい読んでもとか、貸し出してるとかいうのは、また後でお渡ししますから、これ見てください。全部書いてあります。

それで一番、高校生として、僕が感じたのは、先ほどの部会でもあったんですけども、勉強する場所がないという声がありました。あれはもう昔から、いっぱい議員がそういう学習する部屋を、エアコンがついた部屋をつくれということ言ってるんですけども、なかなか文化パルクの図書室、図書館の面積的にしんどいということで今のところ実現をしておりません。しかし、今後はそういう声を大事にしていきたいと思っ

てるんですけども、1つだけないしょで教えますけども、あそこに資料室ありますね、見るとこが。あそこで勉強できます。黙って資料1冊持ってきて、黙ってそこ置いて勉強したらできますので、それは悪い使用法ですけども、そういう形で利用、今のとこできますので。部屋をつくるのはちょっと今のとこ待っていただきたいと思います。

○村田圭一郎副議長 斉藤桃子さんの質問にお答えをいたします。

おっしゃるとおり、日本の人口も大体約10年ほど前から、2008年ぐらいから1億2,000万いたこの人口が少しずつ、じわじわ減ってきてます。それからこの城陽市というのは、さらに前です。ここは昭和40年代、50年代にベッドタウンとして人口がふえてきたまちでありますので、新しい家が、これは今開発する大きな場所というのありません。ですから家の数は新たにふえることができません。皆さんのお父さんの、お母さんの兄弟数、兄弟さんも何人兄弟ですかというのを聞いてもらたらわかると思いますね。皆さんの兄弟の数よりおじいさん、おばあさん、さかのぼっていけばどんどんどんどん兄弟の方というのは多いと思います。

それと同じように本当に少子化が年々進んできたという状況でありまして、城陽では今から20年ぐらい前、8万7,000ぐらいいた人口が1万人減ったというような状況で、今7万6,000人ぐらいになってます。そこで少子高齢化というところでは今30%を超えてますから、3人に1人が高齢者と言われる方になってきてます。60歳以上ということになってますね。ですから新たに、今まではベッドタウンとして通勤のまち、こういうまちでしたけども、仕事をふやそうということで今、国道24号の新名神のインターチェンジあたりでも大きな建物ができてきたと思います。また、南のほうの井手町との境目では境界のところにも、そこにも働くところということで、今仕事を誘致してます。ですからそういうふうな働く場、それから、学校で進学で今までは市外に出ていってましたけれども、今度は働いていただく場、それから観光初め交流を図っていくというところで新たな人口の増加策を今、我々議会のほうとしても、ともに考えているところであります。

ですから、具体的にどの年齢層の人々を狙って計画をされてますかというのは、また家帰って見てくださいね。10年後7万5,000人ですね。38年にはそこを維持するようにならねばならないと、このような取り組みであります。

○土居一豊議員 堀土さんの質問にお答えいたします。

防災について、まず避難所の安全性ですけど、耐震的には大丈夫です。ただ、皆さんが学校において体育館の上を見てください。あの上につるしてある照明灯は震度6

で落ちない、大丈夫かな、上に張られとるパネル落ちることないかなというふうに見れば、城陽市のものの中でも、必ずしも構造部材という建物が倒れますか、倒れませんかという基準からすれば全て大丈夫です。しかし、そこに取りつけてあるものについては、完全にまだそこまでできてないのが現状です。一旦避難所に入った方がその建物が潰れることはありません。しかし、同じ地震が、熊本のように同じ震度がもう一度起きたときには上から物が落ちてけがをすることがあるかもわからない。そういう避難所はまだあります。現在避難所は 41 カ所指定してるが、耐震的には大丈夫です。そして緊急避難所として 75 カ所指定してます。こちらも大丈夫です。しかし、言ったようなところについては一部避難所に入ったときに確認、また安全をとる必要があるんじゃないかということで、100%大丈夫かと言えば大丈夫じゃございません。そ

ういう注意が必要です。

2 つ目、備蓄品について
お尋ね、お答えします。備蓄品の基準は、城陽で一番被害が大きいと言われる生駒断層のときの被害人口



口を基準にしております。そのときに人口は約 2 万 2,000 人の方が被災するだろうと。そのうち市が 50%、京都府が 50%でいろいろな備蓄品を持ちましょうということになってます。ちなみに数を言います。乾パン 1 万 5,000 食、白がゆ 6,300 食、飲料水 2 万 2,000 食であり、市は乾パン 8,500 食等で、大体必要な数はそろっております。そのほか今申しました毛布等も備えておって、一応備蓄の基準はできているのが現状でございます。

最後に、ハザードマップ、どこの市も同じですけど、城陽以外の方もいらっしゃいますけど、水害編と地震編という 2 つの防災マップを各市町村はつくってます。城陽市もこれをつくって配ったのが、平成 22 年、23 年に配りました。しかし、ことしの 6 月、新しい浸水想定というのが出てまいりました。国交省が出しました。それによると従来の城陽市の水害より多いところでは 2 メートルくらい浸水がふえるということが出てます。よって、城陽市は、これを 30 年度につくって、31 年度に新しいのを配る予定になっております。以上のような体制です。お帰りのときに皆さんに 1 部ずつ渡しますので、お持ち帰りください。

○若山憲子議員 榎島さんの質問に答えたいと思います。

観光に自然のものが生かせるのかということで、城陽市ではエコミュージアムとい

う形で取り組みを進めています。それはどっかの博物館に行くのではなくって、地域そのものが博物館やという考え方で実際にはそういうことを進めています。

それでこれも先ほど私たち高校生の皆さんから資料いただいたので、後で渡したいと思うんですけど、JOYOエコミュージアムという冊子がありますし、それで言うといわゆる縄文時代のところでは3体のそういうキャラクターをつくったりとか、いろんな形で時代を追って、こういうキャラクターをその場所に設置をすることで観光客はさらに呼び込もうということがありますし、榎島さんの近くになるのかどうかわかりませんが、通称ダンプ街道と言われるところがあるんですけど、市道302号線と言われるんですけど、そのところを自衛隊の演習場に向かっていくと左側に旦那神社という神社があるんですけど、その神社では、いわゆる神社を守っておられる方、観音堂あぜみちの会という方たちがその神社を守るとともに、そこにあったご神体と言われるものを歴史民俗資料館から借りてきて、そういうのまた手彫りを



して地域で公開をするというような取り組みも現実に行われています。

それで城陽市は、本当に古墳のまちですので、自然のそういう遺跡を含めて資産、財産というものがたくさんあるので、その活用の仕方は今後なんですけれど、地域の方と一緒に取り組むことでその資源を有効に活用していけるのではないかと私たちも

思っていますし、エコミュージアムは単に観光客を呼び込むというのではなくって、地域にあるそういう遺産、財産を生かしていく取り組みに私たちもしていきたいと思っています。

○土居一豊議員 きょう欠席されてる大北さんの電車の複線化は無理ですけど、バスの本数はふやせませんかということについてお答えいたします。

先ほど第2グループで畑中議員が答弁されたとおり、たくさんお客さんに利用していただければバスのかかったお金は運賃で賄えるんですよね。民間企業は、そこにバスを走らせる場合には、かかったお金を運賃で全部賄えるようにして、会社が持ち出しのお金をしないようにして民間企業は運行するわけです。それで足りない場合、どうするか。バスをもう運行しませんよ。しかし、市町村は、運行やめてもらっては困る。足りない分補助金出しますので、バスを走らせてくださいと言って全国不便なところは市町村が補助金を補填して走ってるわけです。

じゃあ、城陽のさんさんバス、年間どれだけ補助金を出しとるでしょう。5,000万使ってるんです。1キロ走らすのに407円、27年度決算によると。あのバスは、走らせた距離によって補助金が決まるんです。大北さんからバスの運行ふやせませんか。走らせば走らせた距離に応じて407円プラスしていかなきゃならないんです。これが今、城陽市がさんさんバスをバス会社に運行委託してる実態なんです。確かに市民の皆さんからすれば同じ税金を払っとるのに何でうちは走ってないの。走らせてよということ出るかもわかりませんが、バスを走らせて乗っていただければいい。しかし、乗る方が少なかったら走らせただけ1キロにつき407円払わなきゃならん。年間トータルです、合計で。それで5,000万になっとんです。このことをまず市民の皆さんにはご理解いただきたいな。

しかし、今の状況でだめだということは20人の議員全部理解してます。そこで、さんさんバスだけでなく、タクシー会社に依頼をするデマンド型タクシー、タクシー会社をお願いして予約して、予約した時間、場所に迎えに来ていただく。そして市内であれば300円とか400円とか決まった金額で市内走らせてもらう、こういう運行を全国ととるところがあるわけなんです。議員の中でもそういう提案を多く出します。市のほうは現在、このさんさんバスの状態を含めて城陽市の方の高齢者の移動手段をどのように確保するのか、早急に結論を出す方向になってます。議員みんな関心を持っています。この件についてはどうか城陽市お住まいの皆さん、今後どのように市が打ち出してくるか、それに対して議会がどのように対応していくか、ぜひ関心を持っていただきたい。5,000万かかるとということをご理解いただきたいと思います。

〇一瀬裕子議員 きょう欠席の白数さんの質問、イルミネーションの場所で青谷の梅をアピールするのはどうかというご質問にお答えいたします。

まず、大変貴重なご意見ありがとうございますということをお伝えください。

TWINKLE JOYOということで、毎年12月1日から25日まで鴻ノ巣山運動公園で行ってます天使の光に包まれた観光のまち城陽と題した、TWINKLE JOYOが行われてるんですけども、こちらのほうで実は観光協会のブースがありまして、石の広場で物産展というのを行ってます。そこでも青谷の梅を使った加工品は販売はされてるんですけども、こういう質問が出るということはやっぱり、なかなか皆さんに浸透してないんだということがよくわかりますので、それは私ども反省したいと思います。

先ほどのグループディスカッションのときも出てましたけども、城陽市のアピールが少ない。特色をもっとアピールしてはどうかという意見、たくさん出てました。広

報の力とかそういうアピール力が今までなかなか少なくって、市民の方、ほかの方、市外の方々になかなか知っていただけてないということがありますので、今後はSNSを活用したりしていきたいと思います。

このTWINKLE JOYOなどは市外から本当にたくさんの方が来られていますので、こういう機会に城陽市の特産物、青谷の梅を初めいろんなもの、いいものがありますので、そういうものを使った特産物の販売なんかも、こういう機会は皆さんにアピールする絶好のチャンスですので、今後はその普及に努めたいと思います。

また、青谷の梅を使ったデザートコンテストというのも先日行われまして、そこで入賞した作品などもありますし、それをまた使っていただくお店をお願いして、この絶好のチャンスのTWINKLE JOYOのときに販売していただくということも視野に入れ、これからも普及に努めたいと思います。

○本城隆志議員 第3グループ、まだちょっとありますけれども、先ほどもう一つ、議員が本会議でないときとか、どういうことをしてるかということの質問もあったようでございますので、お願いします。

○宮園昌美議員 なかなかいい質問でございまして。よく何もしてない議員もいるそうですので。城陽市議会の議員さんは皆それなりにみんな頑張っておりますので、大丈夫と思います。実際に



私らが役所の人みたいに9時前に来て、5時過ぎまでいるということはありません。大体会議は10時から始まりますので、10時から、早ければ昼過ぎに終わりますし、長いときには夜までかかりますけども、その間は拘束されますけども、それが大体厳密に言いますと70日間ほどです。365日のうちの70日間ほどは完全に拘束されますが、それ以外はいろいろありまして、100日ぐらいはあるんで拘束されるというような日程でございます。

それ以外は何をしてるのかというと、大体一番多いのが地域の活動です。地域と言っても皆さんわかるかどうか知りませんが、自治会長とか、知らないかな。社協とか、青少健とか、そういう団体がありまして、そういうの役員をしたり、地域の活動してる方が一番多いと思います。

それから次に多いのが、皆さんどこかの政党さんとか団体の支援を受けて議員になってる人が結構いますので、そういう方は、そういう団体、政党のお仕事もお手伝いをしているということもございますので。それからまた、何人か、この中でも三、四人が仕事をしてる人もいます。本業というのか、どれが本業かわかりませんが、

仕事をしてる人もいますので。さまざまな方が議員になってるということです。逆に、さまざまな議員がいることで議会の活性化というのができてると思いますので、皆個々に違いますので、1回あなた何しとるのと聞いてください。みんな答えると思いますので、よろしくお願いします。

○本城隆志議員 以上で第3グループ全ての高校生・高等部生からの意見発表が終わりました。

○本城隆志議員 もうほとんど時間ないんですが、これはということを聞いてみたいことがありましたら言っていただいたら、私はその議員を指名しますから、どうぞ。ありませんか。

議員のほうから高校生に聞くことございませんか。

○上原敏議員 グループ交流会でも申し上げましたけれども、皆さん18歳までの方々だと思いますが、ここには40歳以上の者しかおりません。法律上25歳からなれることになっておりますが、もっと40歳までの人は何でいいひんのやろうとか、えっ、いいひんかったんとか、いなあかんの違うかとか、グループ以外の方も含めまして率直に思ってること言っていただけたらと思います。よろしくお願いします。

○竹山舞さん 失礼します。私の意見なんですが、40代の方がいてもいいんじゃないかな、40代以上の人たちの集まりでもいいんじゃないかなと思います。こういうふうに私たち高校生集めていただいて、その中で意見交換会をするなら、それは議員の方たちが40以上だとしてもちゃんと意見を聞いてくださるので、それはそれでうれしいです。

○本城隆志議員 今の答弁、各議員安心しました。ありがとうございます。

ほかにございませんか。

○奥村文浩議員 きょう高校生の皆さんが集まっていただいて、その中で小川さんですかね、こんな資料つくっていただきまして、僕もこういう資料つくるの好きなほうなんですけども、なかなかすばらしいなと思いますので、この資料に基づいて一言だけ意見を言わせてほしいと思うんです。

交通のことは、すごくみんなどの議員も関心事なんですけれども、これは鉄道について中心に書かれていますけども、さんさんバスもこの鉄道からまた乗りかえてバスの乗客になるということで、つながってる問題だと思うんですね。

それで最初にここに図を描いていただきましたけれども、これを見て1つわかることは、例えば急行停車駅なんですけれども、ここに出てる急行停車駅の全ては交通の

乗りかえができる駅なんですね。ですから急行がとまるということは、近鉄に聞きますと、乗客がふえれば急行がとまるんだと。だけれども、これを見ますと乗客をふやすということは、交通の乗りかえ駅になるということなんですね。そう思いますとやっぱり急行をとめたり、そういったことをすると乗客がふえて、さんさんバスに乗りかえる人もふえると、そういうことを考えて、やっぱり寺田駅、どこか城陽市の1つの中にそういう交通を結節するとか、集めるとか、そういったことをしなければならぬと、そういうふうに考えています。

ただ、市のほうは、お金のある範囲でできること、できないことというのをやっぱり考えなければいけないので、そこは我々が言っていることと市が言っていることが必ずしも一致してるわけではないんです。我々は、やはりきょう小川さんがつくっていただいたようなそういった考え方に近い考えで、市のほうにこういう便利な交通の環境をつくってほしいと、そういうふうに申し上げていきますし、これからもそういうふうに訴えていきたいと、そういうふうに思っています。

○本城隆志議員 全体の流れを察していただかないと困るんですけども。議員というのは自分の意見を言いたい人がたくさんおられますけれども、そういう意味でちょっと司会進行が一番苦勞しておりますけれども。

○本城隆志議員 日程第3、閉会あいさつを行います。

議会報告会（高校生・高等部生との意見交換会）の閉会にあたり、村田圭一郎城陽市議会副議長よりご挨拶を申し上げます。

○村田圭一郎副議長 皆さん、きょうはどうもお疲れさまでした。

このような試みを初めてさせていただきました。先ほど議員がふだん何をしているのか。具体的な事例を私の隣の先輩議員がお答えいただきました。例えば先ほど学校の紹介の中で文化祭、これ2学期早々にありますよね。これに向かって準備を今、日ごろしておられるということですよ。でも大会は1日しかありません。



先ほど小川さん、このような分析のレポートありがとうございます。このように我々本会議というのは、年に4回しかないわけですね。3月、6月、9月、12月、それ以外の特別な委員会しかありません。ですが、このような20名でこの城陽の市議会は構成しておりますけれども、本当に一人一人が皆さんの声、例えば女性の声、子どもさんの声、それから高齢者の方の声、また障がいをお持ちの方の声、それぞれの立場で物事を考えて、研究をして、調査をして、そのようなたった1

時間の、1回の定例会につき1回なんですけど、発言するチャンス、これに一生懸命、日夜研さんをしたり、調査をしたり、こういうふうにしてるんですね。このようなことも今、伝えさせていただきました。

きょうの出席の生徒さん14名でございます。本来ならば8月の7日に、もしもその日に開催がなかったならば20名の方と20名の議員で意見交換、また議会報告会をさせていただきたかったというのが本意なんですけれども、こればかりは今回はかなうことはできませんでした。しかし、14名の皆さんでこのような会議をさせていただきました。

まず各学校を知るということで、私たち、また皆さんもそうだったと思います。やはり自分のことはよくわかって他人さんのことはよくわからない。皆さんのことはよく知らない。ですが、このような共通の時間を持つことによって、いろんなことがわかったと思います。僕も映像で見させていただきました。あのような本当に大変な卵の消毒作業、それからパンを一斉につくっておられたりしました。このようなことをやはり時代が違ったらわからないんですね。ですから本当に大事なことで、多世代の交流、ですから皆さんがどのように考えておられるのか、どんなアイデアお持ちなのか、皆さんの視点を本当にきょうこのような時間、限られた時間でしたけども、一緒に過ごして議論させていただくことによって本当によくわかりました。勉強になりました。大きな課題も見つかりました。皆さんの声というのは、このような20人中でもう本当に議論してるんです。ですが、それが伝わってないということもよくわかりました。本当に貴重な時間ありがとうございました。

また、議会の1つだけ宣伝をさせていただくとするならば、定例会ですとか、そのような状況というの皆さんお持ちのスマホ、またおうちに帰ったらパソコンですね、そこで録画中継、またライブ中継もありますけども、見ることができます。皆さんときょう一緒に過ごした議員はどんなテーマで議論してるのかなというの、また見てください。

本当にきょうのこの日に大変な準備があったと思います。先生方、3校の生徒さんたちですね、本当に貴重な時間をありがとうございました。

最後に、我々全員でここは同じ思いなんです。本当にきょうすばらしい機会いただきましたことに心からお礼を申し上げます。あと10日ほどです。10日ほどのお休みの時間、本当に有意義な休み、また貴重な考える時間にしていただけたらと思います。きょうは本当にありがとうございました。これで閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

○本城隆志議員 以上をもちまして、議会報告会
(高校生・高等部生との意見交換会)を閉会いたします。

生徒の皆さま、また城陽高等学校長 國府功先生、
西城陽高等学校長 稲川孝幸先生、城陽支援学校長
竹尾章彦先生はじめ、先生方、どうもありがとうございました。

生徒の皆さんには、本日の経験を糧に、また何年後か、この場に今度は城陽市議会議員として戻って
きていただきたいと思いますし、またそう思っ
ただけのような議会を築いていこうと思いを新たにしております。どうも皆さん、あ
りがとうございました。

(拍手)

それでは、全員起立。

[全員起立・一礼]

○本城隆志議員 本日は、どうもありがとうございました。(拍手)

午後5時05分閉会

城陽市議会議長 増 田 貴

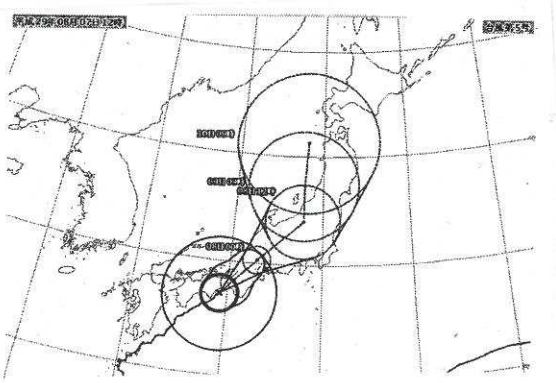
城陽市議会議員 本 城 隆 志



V 資料

[1] 実施に至る経過

日 時	項 目
6 月 9 日	議会活性化推進会議 ・ 6 月議会の議会報告会を 8 月中旬までに実施することを確認 ・ 内容は「意見交換会」的に、対象は「子どもや高校生」も考慮する
6 月 27 日	議会活性化推進会議 ・ 議会報告会実施要領骨子(案)を配付し、説明 ・ テーマは、「議会・議員の仕事と役割について」「住みたくなるようなまちづくり」を主題とする ・ 今後のスケジュールについて協議 ・ 高校側から議場を使わせてほしい旨、要望を受けたことを報告
7 月 6 日	議員全員協議会 ・ 高校生・高等部生との議会報告会実施について、議長から報告。活性化推進会議委員長より、経過や開催要領、日程等について説明し、了承を得る
7 月 10 日	・ 議長より各校へ文書にて参加依頼（山城教育局へは報告文書）、あわせて掲示用ポスター及びチラシを配付 ・ 市長あて協力依頼を文書送付
	市議会ホームページに、実施要領を公開
7 月 28 日	・ 各校及び議員へ議会報告会事前説明会への参加依頼
7 月 31 日	意見交換会事前説明会 ・ 議員 13 人、城陽高校（生徒 5 人・教員 1 人）、西城陽高校（生徒 6 人・教員 3 人）、城陽支援学校（教員 4 人）の出席を得て開催 ・ 8 月 7 日当日の進め方、注意事項について説明し、グループ討議を実践
	

	・本会議場でグループごとの議席を確認 
8月4日	議員全員協議会 ・8月7日の高校生との意見交換会日程等について、議長及び活性化推進会議委員長から報告 ・高校生及び議員のグループ分け、議場の座席表、議事日程、タイムスケジュールを配付し、当日の流れを説明。参加者アンケート（案）を配付
8月7日	意見交換会中止 ・本日の高校生との意見交換会については、台風5号の接近により、午前9時55分、暴風警報、大雨・洪水警報が発令されたため、議長及び活性化推進会議委員長、議会運営委員長、活性化副委員長協議の結果、中止と決定 ・日程が調整可能なら、延期して8月中に開催したい旨、高校側に提案。返事を待って協議することとする 
8月14日	議長名で、全議員宛、議会報告会の日程（8月21日午後2時～）を再度、連絡。合わせて出席を要請 ・3校及び山城教育局、奥田市長へ、報告会の日程を再度、送付
8月21日	意見交換会（日程変更により、6名の生徒が欠席となり開催）

[2] 開催概要

1. 目的

高校生が政治への関心を高め、議会を身近な存在として理解されるよう議会の役割等を説明し、高校生が望む魅力あるまちづくりなどを、ともに考える機会とする。

2. 趣旨

城陽市議会基本条例第7条で、市民及び議員が情報及び意見を交換する議会報告会を開催すると定めている。今回は、対象を高校生として意見交換会の開催を試み、それらの意思を反映した施策の展開を検討していくもの。

3. 主催

城陽市議会

4. 日時

平成29年8月21日（月） 午後2時00分～午後5時05分
城陽市議会 議場等にて実施

5. 参加対象者

城陽高等学校、西城陽高等学校、城陽支援学校に通う高校生・高等部生（20人）及び市内在住の高校生

6. テーマ

1. 住みよい、魅力あるまちづくりへの提言
2. 地方議会及び議員に期待すること

7. スケジュール

- ・事前説明会 平成29年7月31日（月）市役所4階 議場等
市議会の仕組み等の説明、グループワーク等
- ・議会報告会（高校生・高等部生との意見交換会）
平成29年8月21日（月）市役所4階 議場等

[3] 案内チラシ・配付資料等

議員に聞かせよう
**青春の思い
高校生のギモン**

日時) 8月7日(月) 午後1時30分～午後4時
場所) 城陽市役所 4階 議場
内容) 意見交換会

- ・住みよい 魅力あるまちづくりへの提言
- ・地方議会や議員に期待すること

主 催 城陽市議会
連絡先 市議会事務局 Tel 56-4000

いつてみる?



〔４〕参加者アンケート調査及び結果

城陽市議会

高校生との意見交換会 参加アンケート

本日は、夏休みの貴重な時間にご参加いただき、ありがとうございました。参加した感想を、是非お聞かせください。皆さんの意見を、今後の市議会の活動に活かします。該当するものに○をつけてください。

- ①意見交換会を何で知りましたか。

- ・学校の紹介で
- ・友達に誘われた
- ・ポスター、チラシを見た
- ・その他 ()

- ②参加しようと思った理由は。(複数可)

- ・ 政治に興味がある
- ・ 市議会に言いたいことがある
- ・ 城陽市のことを知りたいから
- ・ その他 ()

- ③意見交換会を通して、自分の思いを伝えることができましたか。

- ・できた ・どちらとも言えない ・できなかった

- ④議場での質問に対する答えは、よくわかりましたか。

- ・わかった ・わかりにくかった ・わからなかった

- ⑤意見交換会に参加して、市議会に興味・関心が持てましたか。

- ・持てた ・どちらともいえない ・持てない

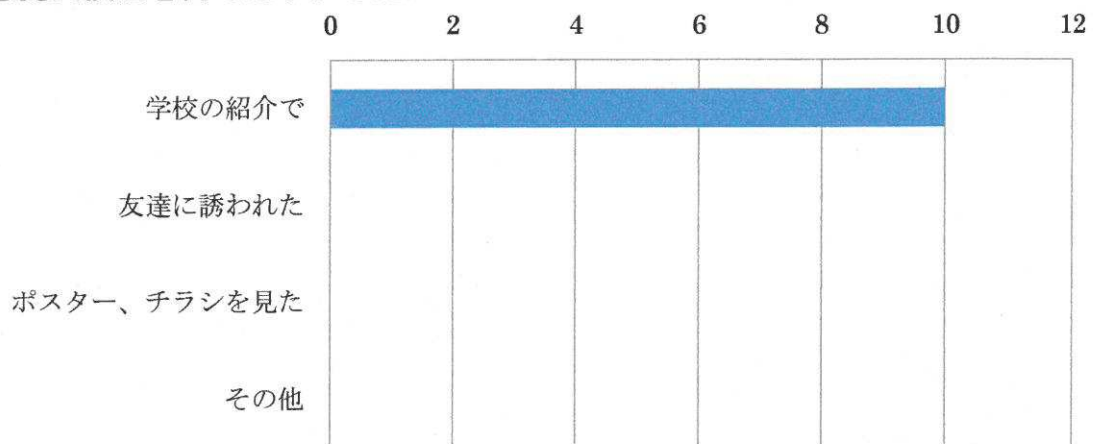
- ⑥参加した感想や気づいたことなど、お聞かせください。

ありがとうございました。

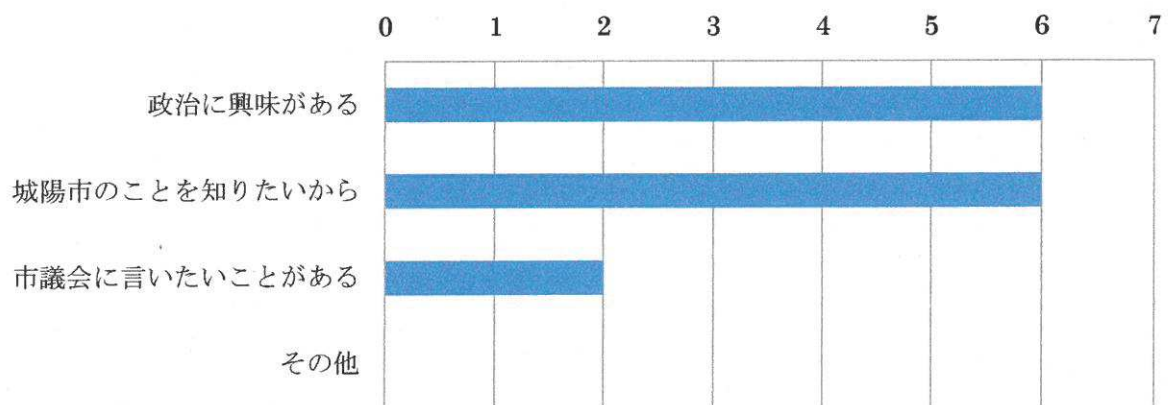
参加者数：14人

アンケート回答数：10人

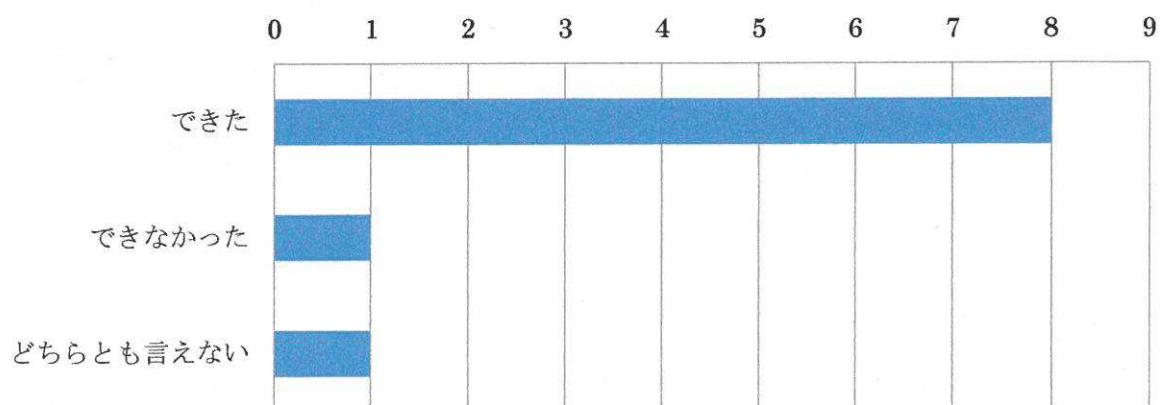
①意見交換会を何で知りましたか



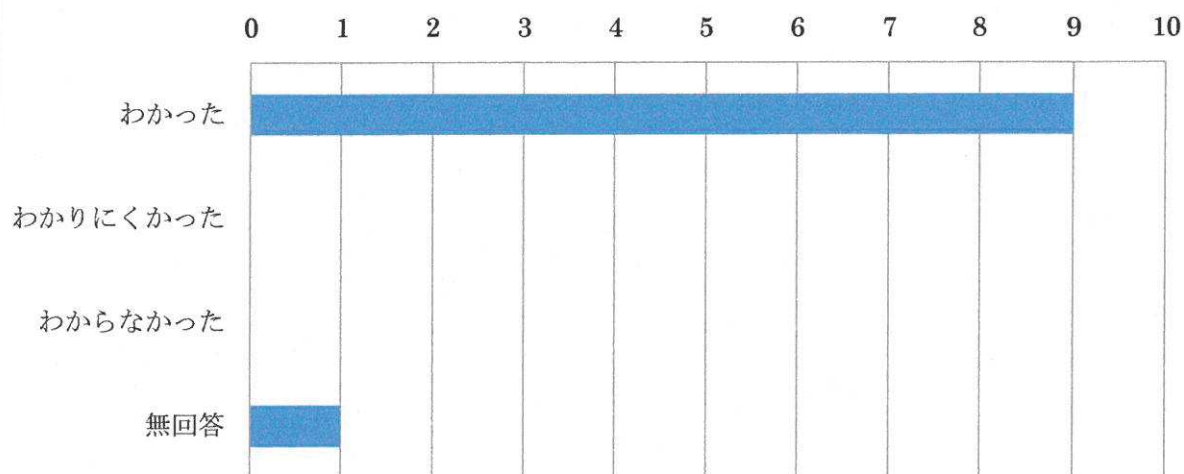
②参加しようと思った理由は（複数可）



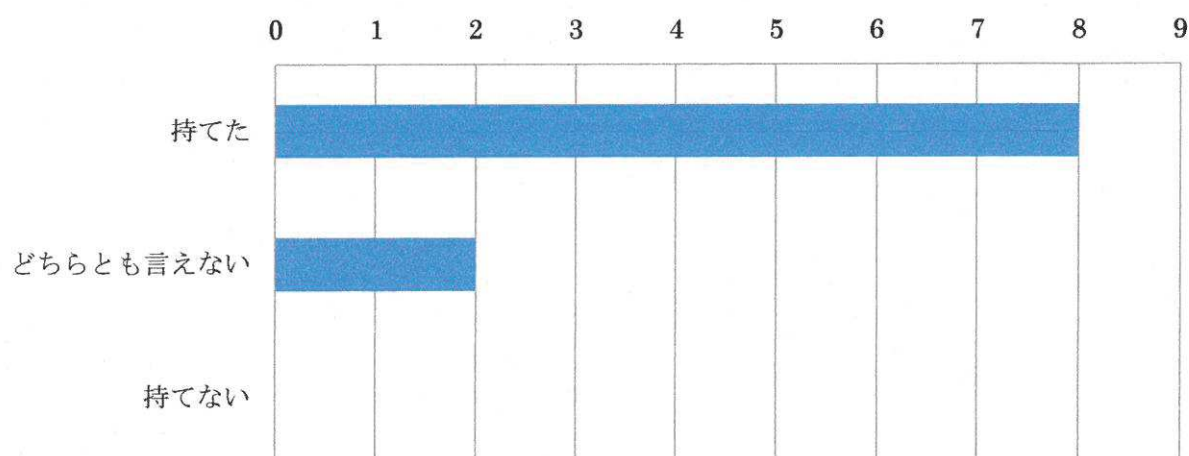
③意見交換会を通して、自分の思いを伝えることができましたか



④議場での質問に対する答えは、よくわかりましたか。



⑤意見交換会に参加して、市議会に興味・関心が持てましたか



⑥参加した感想や気づいたことなど、お聞かせください

めっちゃ緊張しました。
けど、とてもすばらしい機会でした！
今日のことを、これからに生かしていけるよう、がんばります！
本当にありがとうございました。

PRが絶望的に足りないこと、梅の加工品は多い、バスが昔あったこと、子ども向けイベントのこと、何一つ知りませんでした。WebやSNS、テレビ等をつかってください。またこのような機会があれば、参加したいです。

自分の思ったこと、知りたいことをくわしくおしえていただき、分からないことが解決しました。他校の方とも交流できていい体験ができました。これからも、このような機会をもうけていただければ、うれしいです。よろしくおねがいします。

普段なら見られないもの、聞けないものを体験できて良かったです。

今回の意見交換会は、正直城陽市のことをよく知らなかった私が城陽市という市について興味をもてるとてもいい機会になって、さらに市議会という貴重な体験もさせていただき、とても良い勉強になりました。

まずはおいそがしい中、このような意見交換会というお時間をいただきましてありがとうございました。僕は西城陽高校の本部役員として、先生に紹介してもらったのですが、その時、よくニュースとかでも取り上げられる事の多い、あの議場で自分も城陽市の議員の方々とこうして意見交換ができると聞いて本当にうれしかったです。本会議ではお時間が少ない中レポートを配付させていただき、ありがとうございました。また、質問に対し、くわしく丁寧な回答をありがとうございました。僕は利便性を高め、人口を増やすと言っていましたが、実際年間5000万というお金を負担しているなど、大きな壁があることが知れました。また、供給の事についてしか、僕は言っていませんでしたが、答弁でバスに乗る人がいないという需要からの目線についても学ぶことができました。色んな方向から考え、そこからより良い物が出来上がるんだなと実感できました。良い体験をさせていただき、ありがとうございました。

私は幼い時から城陽市に住んでいるので、昔から思っていることがあったので、意見交換会という場所で言うことができて良かったです。9月15日の広報じょうようを読んだのですが、表にジュニア議会とあり、小学生も行っていたのだと知りました。城陽市に中学校は5つあります。なので、次は中学生と意見交換会を行われてはどうでしょうか（決定していただけます）

私の高校からは、今回7人参加して3人生徒会、4人それ以外だったので、生徒会ではなくてもよいと思いました。これは私の意見です。（私の妹は中学校にかよっているのですが、不満があるようなので…）もしよければ、参考にさせていただけたらと…私情でもうしわけないのですが、私は将来、中学の社会科教諭になりたいと思っています。その上で議会のしくみなどは知っていかなければなりません。今回、この機会です。初めて議会の中に入ることができ、しくみなども知ることができました。ありがとうございます。

そして、城陽市議会のみなさんと意見を交換し、自分にできることはないかと考えるきっかけとなりました。さんさんバスなどの不満をもっているだけでは何も変わらない、変えていくのは一城陽市民である自分だと思いました。

本当にたくさんのことを考えさせられた1日でした。（半日かな？）得られたことは、これからの生活に生かしていきたいと思います。今回は呼んでくださって、本当にありがとうございました。次機会があるのならば、ぜひともよんで下さい！

議会などは遠い存在だと思っていたけれど、今回参加してみて、意外と近いんだと思いました。

政治のことが沢山知れていい経験になりました。

意見を交換し交流するのは大事です。定期的に開催するべきだと思います。

意見を言わせていただき、ありがとうございました。

[5] 議会報告会（高校生・高等部生との意見交換会）での意見・要望について（報告）及び同（回答）

29城議第 412 号
平成29年10月 2日
(2017年)

城陽市長
奥 田 敏 晴 様

城陽市議会議長

増 田 貴 

議会報告会（高校生・高等部生との意見交換会）での
意見・要望について（報告）

平成29年8月21日に行いました議会報告会（高校生・高等部生との意見交換会）では、多くの意見・要望等をいただきました。これらをもとに、議会活性化推進会議において、行政に係る内容を下記のとおり集約しました。

つきましては、現状を各学校へ報告する必要があるため、検討いただき、10月12日までに、返答願います。

記

（市長直轄組織・消防本部関係）

- 1 市の防災対策は万全か。防災備蓄品の管理やハザードマップの住民への周知を

（総務部・企画管理部・市民環境部・上下水道部関係）

- 1 人口減少に歯止めをかける施策や計画は
- 1 歴史民俗資料館や古墳といった歴史的文化財や自然環境、また青谷の梅などの特産品をどのようにPRするか。SNS等の有効活用や各種イベントとのコラボを
- 1 アウトレット招致などの大型事業が進んでいるが、環境面への十分な配慮を

（福祉保健部・教育委員会関係）

- 1 城陽市内にフルマラソンコースの設置を
- 1 障がい者の就労促進に向けた実習先の拡大
- 1 障がい者に対する理解を深めるため、学校間の交流機会の増加
- 1 山城青谷駅から城陽支援学校までの通学路の整備
- 1 市立図書館に自習室の設置を
- 1 市のPRとして親子向けの体験イベントを行い、転入者の増を

（まちづくり活性部・都市整備部関係）

- 1 JR城陽駅にエスカレーターの設置
- 1 JRの駅整備は進んでいるが、近鉄の駅周辺整備は遅れている。バスも含めた市全体の公共交通網の整備

29 城 秘 第 9 4 号
平成 29 年 10 月 12 日
(2017 年)

城陽市議会議長

増 田 貴 様

城陽市長 奥田 敏晴 

議会報告会（高校生・高等部生との意見交換会）での
意見・要望について（回答）

秋涼の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は市政運営にご理解
とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

標記の件につきまして、下記のとおり回答いたします

記

1 市の防災対策は万全か。防災備蓄品の管理やハザードマップの住民への周知を

市の防災対策の根幹は城陽市地域防災計画に定めていますが、防災対策に万全はな
いと考えており、今後とも国や京都府の防災対策と連動しながら、絶えず見直しを行
うことにより、防災対策の充実・強化に努めてまいります。

防災備蓄品の備蓄については、小学校の空き教室を利用した4ヶ所（深谷・久津川・
古川・今池）、学校敷地内に屋外倉庫を設置した7ヶ所（寺田西・寺田・城中・青谷・
寺田南・久世・富野）及び南部コミセンにある防災倉庫の12ヶ所で、行っており、
全て市（危機・防災対策課）が管理しています。

なお、ハザードマップ（水害編・地震編）については平成23年度に全戸配布し、
以降、出前講座や防災所管課で配布していますが、平成29年度中にハザードマップ
を含む防災啓発冊子を作成し、平成30年度に市内全戸配布する予定です。

1 人口減少に歯止めをかける施策や計画は

日本の人口については、平成27年度の国勢調査で初めて減少を記録し、今後もこ
の傾向は続いていくと見込まれています。これは、子育て・教育にかかるコストが上

昇し、安心して子育てができないことや、未婚・晩婚化が進んでいることなどにより、女性1人が一生のうちに生む子供の平均数（合計特殊出生率）が低下していることが要因となっています。

こうした人口減少に歯止めをかけるため、国は「まち・ひと・しごと創生法」という法律を制定し、市町村はこの法律に基づく計画を策定し、様々な施策を実施しています。

城陽市においても、「山背五里五里のまち 創生総合戦略」を策定し、若い世代が安心して子育てができるように若者の就労や結婚、子育てへの支援や環境の充実を図る施策などを実施しています。

また、市の人口減少は、上記の出生率に加えて、他市町村への転出（引越しなど住所を移すこと）も要因となりますので、これまで日本郵便㈱を始めとする大企業やアウトレットモールの誘致などにより、交流人口（城陽市に訪れる人の数）の増加を図る取組みを進めてきました。

今後は、城陽市を訪れた方が定住していただけるように、更なるまちの活性化を図るとともに、生活道路の整備などの住環境の改善や福祉、教育の充実、消防・防災の強化を行うなど、暮らしやすいNEW城陽を市民の皆さまとともに創っていきたいと考えています

1 歴史民俗資料館や古墳といった歴史的文化財や自然環境、また青谷の梅などの特産品をどのようにPRするか。SNS等の有効活用や各種イベントとのコラボを

市内には、古墳・遺跡や由緒ある社寺などが数多く存在しているほか、ハイキングや花見の場所として親しまれている鴻ノ巣山散策道、「京都の自然200選」にも選ばれている鴨谷の滝、日本一のてん茶を育む日本遺産の浜茶の景観を楽しめる木津川堤防サイクリングロードといった、自然を満喫できる環境に恵まれています。

現在、城陽市では、まちづくりの一環として、市内に所在する古墳や社寺などの歴史的文化財や自然環境、特産品などの産業や市の施設などを地域資源として活用し、地域全体を活性化させていくエコミュージアム事業を進めています。

これらの地域資源を掘り起こして活用していくことにより、市民にふるさとに対する愛着と誇りをもってまちづくりに取り組んでもらうとともに、広く市外に城陽市の魅力を発信して多くの人たちを呼び込んでいきたいと考えています。

現在、エコミュージアム事業の取り組みの1つとして、地域資源のキャラクターを作成

し、それをパネル化して現地に設置するなど、SNSなどにも発信しやすい仕掛けづくりを進めるとともに、併せて、「まちの魅力発見ツアー」として、史跡や城陽の自然などを歩いて巡っていただくツアーイベントを企画しています。

歴史民俗資料館においては、展示や普及啓発活動をととして、市民や市外の方に城陽市の歴史・文化・自然を広く知っていただくための事業を行っており、エコミュージアム事業を市内・市外に発信し、地域資源などの情報を周知する「コア施設」と位置付けています。歴史民俗資料館についても、今年度よりフェイスブックを開設し、いろんな情報を発信しているところです。

また、地場産業である金銀糸加工、肉厚で桃のような香りの梅「城州白」、抹茶の原料となる日本一の「てん茶」、大粒でみずみずしい「イチジク」、肥沃な砂地で栽培される「寺田いも」や、地下水の温かさを利用した「花き」などの特産物が多々ございます。

これらの歴史・文化・自然資源については、これまでからもポスターやチラシ・パンフレットなどを作成し、市内公共施設や京都駅にある観光案内所に配架するなどにより、その周知を図っております。

様々な特産物についても、首都圏や海外への販路開拓や、スイーツコンテストなどを通じて市を代表する土産物の開発を図る中で、そのPRに努めているところです。

このような、市の魅力をさらに一人でも多くの市民の皆さまに気づいていただき、市民一人ひとりが城陽の魅力の発信者になっていただけるよう、より一層の城陽の魅力発信、PRが必要であると考えており、SNSやマスメディアも積極的に活用する中で、様々なイベントとも組み合わせ、取り組みを進めてまいりたいと考えているところです。

1 アウトレット招致などの大型事業が進んでいるが、環境面への十分な配慮を

城陽市では、環境基本条例や環境基本計画等を策定し、市・市民・市民団体・事業者がパートナーシップのもとで、環境配慮活動や環境保全に取り組んでいます。

ご承知のとおり、城陽市域において、ネクスコ西日本による新名神高速道路事業（平成35年度の全線開通予定）が進められていますが、本市では、そのインパクトを生かしたまちづくりを進めており、今まさに、市が大きく変わろうとしているところです。

現在、新名神高速道路に合わせ、市の東部丘陵地420haのうち長池と青谷の2地区を先行的に整備（先行整備地区）し、その全線開通に合わせたまちびらきを目指

している中、ご意見のとおり長池先行整備地区においてはアウトレットモール進出の可能性が高まっています。

現段階では、まだ具体的な計画は明らかになっておりませんが、市としては、例えば進出予定地内に一定の緑地を設けるよう事業候補者と協議していくなど、環境共生のまちづくりが進むよう取り組んでまいりたいと考えております。

事業者には水質汚濁法や騒音規制法等、順守しなければならない環境関連法令があり、市は、それが順守できているかをしっかりと監視・指導してまいります。

環境共生のまちづくりをめざして、今後も市・市民・市民団体・事業者のパートナーシップのもと、環境施策を進めていきたいと考えています。

1 城陽市内にフルマラソンコースの設置を

毎年、本市で開催されています城陽マラソン大会は、3 km、5 km、10 kmの3コースが設けられています。体力の向上・健康維持を目的に、普段からランニングを楽しんでいる市民の方も多く、参加者も年々増加の傾向にあります。平成26年度のエントリーは2095人でしたが、平成27年度は2144人、平成28年度は2254人と増加してきています。特に10 kmのコースにエントリーされる方の増加が著しく、平成26年度のエントリーは287人でしたが、平成27年度は389人、平成28年度は421人と、この3年で約1.5倍に増加してきています。

このように、長距離のコースをエントリーされる方が増加する中、主催者においても、マラソン大会にフルマラソンやハーフマラソンを実施していきたいという意見が上がってきています。

しかしながら、現在の10 kmのコース設定においても、交通規制などによる市民生活への影響が発生しており、また、参加者の安全確保においても苦慮されている状況にあり、長距離のコース設定には解決していかなければならない課題が多くあります。

今後、京都府の木津川運動公園（五里五里の丘公園）や市の総合運動公園を利用することにより、交通規制を抑制したマラソンコースの長距離化が図れないかを、マラソン大会の主催者と共に検討を行っていきたいと考えます。

1 障がい者の就労促進に向けた実習先の拡大

城陽市障がい者自立支援協議会の就労部会におきまして、企業内での一般業務（事

務的業務や掃除等）を通して、企業で働く体験をし、企業の業種（専門性）をはじめ、働くとはどのようなものなのかを学ぶ機会としてのインターンシップの取組を進めています

また、市役所におきましても、福祉課でこのインターンシップの受け入れを行っています。

今後も、城陽市障がい者自立支援協議会の就労部会において、インターンシップの拡大に向け、企業への周知を図りますとともに、市役所においても、インターンシップの受け入れの拡大を図るため、周知を図ってまいります。

1 障がい者に対する理解を深めるため、学校間の交流機会の増加

本市では、「障害者週間」を中心とした啓発活動のほか、障がい者への理解を広げ、差別をなくすため、城陽市障がい者自立支援協議会の取組の1つとして、年3回の市民講座と年1回の施設等見学会を開催しています。

今後も、市民講座や見学会の内容の充実を図り、障がい者に対する理解を広げ、深めるよう、努めてまいります。

また、障がいのある人となない人の交流の機会といたしましては、毎年文化パーク城陽で盛大に開催されております「城陽福祉ふれあいまつり」がございます。この事業は、実行委員会形式で実施をされており、福祉関係団体やそれを支援する団体が集まり、多くの市民が楽しみながら福祉活動とふれあう機会をつくり、参加者全体の交流の場・福祉活動の大切さを再考する場として、本市も後援するとともに、手話や心の相談で出展し、参画しています。

1 山城青谷駅から城陽支援学校までの通学路の整備

J R山城青谷駅から城陽支援学校までの通学路におきましては、過年度に青谷小学校や消防分署前の道路整備を行い歩道の確保等を実施してまいりました。今回のご質問では、歩道が狭いところがあるなど、安全を確保してほしいとのご要望ですが、道路や歩道の拡幅となれば、その用地を買収した上で工事を行うこととなることから、相当の費用と時間をかける必要があります。また、現在のところ、交通量の増加が見込まれないことから、当該地での道路整備計画がなく、早期に事業を行う予定はございません。

したがって、歩道にはみ出ている木の枝の伐採や雑草の除草などの日常管理を

適切に行い、安全な通行確保を行ってまいります。

また、街灯が少ないので、夜は危険とのご指摘ですので、学校等を通じて具体的な場所のご要望をいただければ、現地調査をしたうえで街灯設置の可否の判断をさせていただきますので、ご理解をお願いいたします。

1 市立図書館に自習室の設置を

市立図書館内には、座って読書等に利用することのできる「椅子」が、長椅子を含めて約80席配置しています。その他、レファレンス（調査・研究）のために、「机」と「椅子」を組み合わせで9テーブル、18席を配置しているところです。

現在、館内には20万冊を超える書籍等が配架されており、スペース的に数多くの自習席を確保することは困難であるのが現状であります。

その一方で、学生からの自習するスペースの有無についての問い合わせも多いことから、その必要性について検討を進めたいと考えます。

1 市のPRとして親子向けの体験イベントを行い、転入者の増を

本市には、既に胸躍らせる体験・体感の取り組みに積極的に取り組まれておられる事業所があり、本年2月には関係事業所との座談会を開催いたしました。

座談会でのご意見も踏まえ「胸躍らせる体験・体感 京都JOYOマップ」を作成し、市の魅力発信の一環として京都駅にある観光案内所にも配架しているところです。今後アウトレットへの多くの来場者を新たな交流人口と捉え、来場者に対してどういった仕掛けができるのか、観光協会、商工会議所、JA、体験・体感に取り組む事業所などの関係機関・団体と一丸となって市の魅力アップを図り、定住人口の増加につながる取り組みを進めて行くことは、地元産業の活性化や観光振興にとって極めて重要であります。

市内には、古墳・遺跡や由緒ある社寺などが数多く存在しているほか、地場産業である金銀糸加工、また、梅、茶、イチジク、寺田いもや花きなどの特産物も多々ございます。

これらの資源を活用したスイーツをはじめとする市を代表する土産物の開発や、既に市内事業者において積極的に取り組まれております胸躍らせる体験・体感の取り組みなどを効果的に組み合わせ、市の魅力発信としてどういった仕掛けができるのか、今後、関係機関とも情報を共有しながら、様々な方と協議し、検討してまいりたいと

考えております。

1 JR城陽駅にエスカレーターの設置

現在、JR城陽駅においては、自由通路に改札外と地上を結ぶエレベーターが設置されております。

また、バリアフリーの観点から、平成32年度までに、駅構内の改札内とホームを結ぶエレベーターの設置が、JR西日本において予定されております。

これらにより、階段の昇降が困難な方々にも安心して駅を利用していただけるようになりますことから、エスカレーターの設置については、将来的な課題であると考えますので、ご理解をお願いいたします。

1 JRの駅整備は進んでいるが、近鉄の駅周辺整備は遅れている。バスも含めた市全体の公共交通網の整備

駅周辺整備につきましては、まず、JR城陽駅周辺整備として、平成3年5月に東西を連絡する自由通路及び橋上駅舎整備を行い、平成8年3月には駅東側を土地区画整理事業により駅前広場整備等の整備を行っています。

次に、JR長池駅につきましては、平成24年5月に南北を連絡する自由通路及び橋上駅舎整備を行い、平成26年1月に城陽五里五里の丘（府立木津川運動公園）へのアクセス道路の整備として、駅北側駅前広場の整備を行っています。

次に、山城青谷駅周辺整備については、JR奈良線的高速化・複線化第二期事業の関連事業として、平成34年度の開業予定にあわせ、東西自由通路、橋上駅舎、駅前広場整備完成をめざし取り組みを進めています。

次に、近鉄の駅周辺整備といたしまして、まず、近鉄富野荘駅周辺の整備として、平成5年4月に駅西側自転車駐車場の整備、平成6年3月には駅西側に歩車交通の交錯の解消と、地域住民のコミュニティーの場として、駅前広場の整備を実施しております。

次に、近鉄寺田駅周辺整備として、平成8年3月に近鉄寺田駅東側駅前広場整備を行い、現在、平成30年の新市街地への進出企業の企業操業にあわせ、その最寄り駅として駅西側の駅前広場、そこへの進入道路、また、駅のバリアフリー化整備に向け取り組んでいるところです。

近鉄沿線では、既に住宅開発等が進み、市街地として形成されていることから、新

たな駅周辺の基盤整備等について遅れていることは認識しているところでございますが、市といたしましても、将来のまちづくりも踏まえた駅周辺の整備の必要性を認識し、今後におきましても、近鉄高架化の検討も含めて、駅周辺整備を進めてまいります。本市における公共交通については、鉄道が2路線でそれぞれ3駅の合計6駅が存在しており、また、市が補助を行っている城陽さんさんバスが2路線と一般のバス路線が2路線運行しております。

市としましては、今後、新名神高速道路の供用開始にあわせて、久世荒内・寺田塚本地区の新市街地や東部丘陵地の整備など、市の発展に伴い、新たな人の流れが想定されることから、企業の張り付き状況と人のニーズを見る中で、必要に応じて、城陽さんさんバスも含め、公共交通についての検討を行うこととしております。

府内 高校生との意見交換会 若者の質問に市議答弁

8月7日「報告会」抜本改革

城陽市議会

城陽市議会は、これまでの「議会報告会」の形式を抜本的に改める第1弾として8月7日(月)午後1時30分から4時まで、本会議場などで「高校生との意見交換会」を開くことを決めた。

6月定例会最終本会議が終了した6日、全協を開き、議会活性化推進会議(本城隆志委員

長、6人)のメンバーらが協議内容を全議員に周知した。市議会主催の「高校生との意見交換会」は府内で初めての取り組み。きっかけは、議会活性化推進会議の委員から、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことを受け「高校生対象に議会報告会をできないか」という声が出たこと。

早速、小松原一哉(自民)・河村明子(共産)両委員が市内にある府立城陽・西城陽高校と城陽支援学校を訪問。市議会の意向を伝えたと、3校とも「ぜひ、高校生に意見交換の場を」と前向きな返答があったという。

ただ、夏休みと言えども勉強やクラブ活動など高校生は多忙。現時点では、20人を目標に、とれだけの人数が集まるかは未確定」といい、この日の全協報告を受け、来週10日から増田貴議長も市内3校へ協力依頼に回り、本城委員長と相原佳代子副委員長を含めた3人で、具体的な話を詰めていく。

現在の案では、高校生による各学校紹介のあと①住みよい、魅力あるまちづくりへの提言②地方議会及び議員に期待すること―をテーマに意見交換。さらに、事前通告内容に基づき関心の高い通学路問題など高校生らが「グループ質問」し、それに市議が「答弁」する形式を予定している。

市内3校以外にも、城陽市内に住む高校生は他校にも多く居るが、本城委員長は「ホームページで参加を呼び掛けるほか、私立高校や宇治、久御山など近隣市町の高校にもできるだけ足を運びたい」と意欲的に話す。

なお、全国的には埼玉県越谷市議会が「高校生との意見交換会」を開いているという。

議員20人 VS 高校生20人

8月7日議場で熱論

城陽市議会 京都府内初の試みに期待

城陽市議会は6日、本会議終了後に全員協議会を開き、市内高校生との「意見交換会」を今年8月に、議場などを使って開くことを決めた。詳細については今後詰めていくことにしているが、市議会と高校生の意見交換会は、京都府内で初の試み。議会、学校の双方が「実りあるものになりたい」と意欲を見せており、今後激変が予想される城陽市のあるべき姿や議会のあり方など、熱論が期待される。【藤本博】

同議会は議会改革の一環として2012年2月、市民を対象にした初の「議会懇談会」を開催、当日は予想を超える参加者があり、様々な意見が噴出。疑問や

批判も含め、市民の生の声がぶつけられ、党派を超えた「議会目線」で各議員が答えるなど、大きな成果を上げた。

3月に「議会の見える化」や「議論の活性化」を目指した「市議会基本条例」を策定、同年11月と12月に第1回の「議会報告会」を開催した後、毎年2月と8

月年間2回、定期的に開いてきた。16年6月に、選挙権を20歳から18歳に引き下げる公職選挙法の改正が行われ、国政選挙では同年7月の第24回参院選挙から施行されている。投票率は、20歳代前半(20～24歳)の33%に対し、18歳51・28%、19歳42・38%と予想以上の高い数値を示した。こうした

た動きに呼応し、「城陽市議会活性化推進会議」(本城隆志委員長・委員6人)の中で今年5月以降議論を重ね、これまでの「議会報告会」の延長として、市内高校生に限定した「意見交換会」を開く準備を進めてきた。

この1カ月ほどの取り組みで①開催日は8月7日(月)の午後1時半～同4時②場所は市役所内議場及び委員会室を使用③参加者は市議会側から20人全員、高校生側も20人④参加高校生は、市内にある府立の城陽高校・西城陽高校・支援学校高等部・市内在住高校生などを話し合ってきた。

全員協議会では、こうした開催の骨子について、本城委員長が報告。加えて、市内各高校に打診した感触として「高校側は極めて積極的で、是非参加したいとの強い思いと期待を感じた」と伝えた。本城委員長は「全員協議会で、基本事項を確認した後、具体的な実施要綱を決め、各学校と詰めていきたい。何しろ準備期間が少ないこともあるが、余りガチガチにならず、我々も勉強するスタンスでかつ達な意見交換の場になれば」と新しい取り組みに意欲満々。

今月21、22日で再調整へ

城陽市議会

高校生との意見交換会

した。

各委員は、高校生らも意見交換会に期待を寄せており、可能な限りの出席者で行うべきとの意見で一致。このあとの学校側との調整は、本城委員長に1任。学校側が希望する2日間のうち、いずれかの日に開催できるよう最大限の努力をすることとした。

城陽市議会、議会活性化推進会議が8日開かれ、前日の(7日)に開催予定だった府立城陽・西城陽高校と府立城陽支援学校の20人との意見交換会(議会報告会)をどうするかについて協議した。

冒頭、本城隆志委員長は「全国各地で雨の被害が発生した状況を

みると、延期したことは結果的に正解だった」と挨拶。その後、各校へ電話連絡を入れ、再調整へ向けた日程打診を行ったところ、夏休み後半の今月21、22日あたりで調整できそうだが、いずれも校長が不在で今週末まで正式な返事待ってほしいと話されていた」と報告

平成29年8月9日 洛南タイムス

議会 VS 高校生は21、22日

城陽市議会

総務委開催日は調整中

和歌山に上陸、北陸を抜けていったノロノロ台風5号の影響を受け、城陽市内で7日と8日に開催予定だった「議会報告会」(市内高校生と議員の意見交換会)及び「総務常任委員会」(大西吉文委員長・委員10人)が、相次いで延期となった。

台風の接近に伴い7日午前9時55分、

京都府全域に「大雨・暴風警報」が発令された。これを受けて、この日午後1時半から開催予定だった「議会報告会」が延期となった。

この日午後8時20分には城陽市に土砂災害警戒情報が発令され、深谷地域の土砂災害警戒区域の52世帯110人に避難準備情報が出された。その後、台風が遠ざ

かるにつれいずれも解除となったが、翌8日の12時36分、再び大雨警報が発令されるなど、激しい降雨に見舞われた。市の防災関係部署が対応に追われたこともあり、8日午前10時から開会が予定されていた総務常任委員会も中止を余儀なくされた。委員会では、7月3日に、大津市の瀬田川で発

生した水難救助訓練中の消防員死亡事故について、市から報告を受ける予定をしていた。近日中に開催日程を詰めることにしている。

「議会報告会」については、主導している議会活性化委員会(本城隆志委員長・委員6人)が8日午後1時から開かれ、「8月21日か22日のどちらかに開催すること」で学校側と調整することになった。【藤本博】

21日に「仕切り直し」へ

城陽市議会 市議会 高校生との意見交換会

城陽市議会は、台風接近により今月7日の開催を延期した府立城陽・西城陽高校と城陽支援学校の生徒との意見交換会(議会報告会)を、21日(月)午後2時

から、議会内で開くことを決めた。ただ、日程変更により、当初20人が参加する予定だった生徒数が減少する可能性もあるため、市議会はあす17

日の総務常任委員会の後に、議会活性化推進会議(本城隆志委員長)で、当日の進め方など細部にわたる調整を行うことを決めた。市議と高校生との意見交換会は、全国的には埼玉県越谷市議会などで行われた例があるが、府内では初めて。次代を担う若者のまちづくりに関する質問に、市議らがどう答えるか注目が集まる。意見交換会のうち、本会議場での模様は庁

内モニターで放映され、一般傍聴も可能。しかし、学校側の希望もあり、インターネットでの中継は行わない。

21日午後2時スタート

城陽市議会 注目「議員VS高校生」

今月7日開催予定だったが、台風5号の影響で延期になっていた「市議VS高校生」の意見交換会は

今月21日(月)、時間や参加者数を若干変更して行われることになった。17日開かれた議会活性化委員会(本城隆志委員長・委員6人)で決まった。変更点は、午後1時スタートが同2時からになったほか、参加高校生は20人だったものが、16人、17人と少し減る。

当日は、議員と高校生が3グループに分かれ、委員会室など3会場で意見交換を行い、その後全体会を議場で行うという内容はそのまま。京都府内初の意欲的な取り組みとあって注目を集めている。

【藤本博】

平成29年8月16日 城南新報

平成29年8月18日 洛南タイムス

本会議場で意見を発表する高校生
(城陽市寺田・市役所)



通学路が狭い／公共交通もっと便利に…

高校生14人、市議と共に考えた

城陽市会、市政課題テーマに

城陽市議会は21日、市内の高校生との意見交換会を市役所(同市寺田)で初めて開いた。アウトレットモールなどの開発やインフラ整備、地域の活性化などの市政課題について生徒と市議が共に考えた。

議會を身近に感じてもらうと市議會が主催した。城陽高と西城陽高、城陽支援学校高等部の1～3年生の生徒会役員や有志14人が参加した。自己紹介や学校紹介の後、生徒と市議が3班に分かれ、住みよいまちづくりや地方議會への期待について話し合った。生徒たちは各自が感じている市政課題をメモに書き、1枚の大きな紙に貼り付けて

市議と意見を交わした。

その後、本会議場で生徒たちが意見発表した。生徒は1人ずつ「通学路が狭い。街灯をもっと付けてほしい」「公共交通機関の利便性を向上させれば、人口増につながる」「自然環境や歴史的文化財をどう観光アピールに生かそうとしているか」などの提言や質問をし、市議が答えた。城陽市を取り巻く公共交通の現状や課題をまとめたリポートを提出した西城陽高1年小川航輝さん(16)は「木津川市木津川台」は「テレビでよく見る国会中継のようなムードが体験できた。自分の意見が伝わって良かった」と話していた。(今口規子)

府内初、高校生と意見交換会

「生活道路、狭くて暗い」

市議 若者目線で改善点突く

城陽市議会

城陽市議会による府内初の取り組み「高校生との意見交換会」が21日、本会議場などで開かれ、日常生活で感じ取った市政課題や若者目線からの鋭い質問に対し、市議らは普段の役割から一転、懸命なる答弁を展開した。「生活道路が狭くて夜は暗い。いくらアウトレットができて、今のままなら街中に人は来ない」「城陽の人は挨拶したら必ず返してくれる。この温かさを市外へ発信すれば、住みたいと思ってくれる人も増える」との声に、行政と車の両輪となって市政発展に取り組み市議らは悲喜こもごもの心境で答弁に追われた。

市議会の最高規範。議会基本条例に基づき「市政報告会」の代わりに初開催された「高校生との意見交換会」は当初、今月7日に行う予定だったが、台風接近により延期。2週間遅れとなったため、市議20人と生徒20人の力押しで勝負は

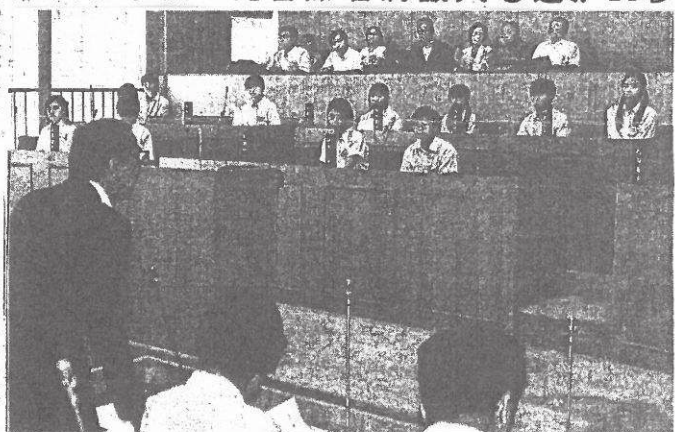
実現しなかったが、それでも若者の声を市政に反映するためには十分な中身となった。出席したのは府立城陽・西城陽高校と城陽支援学校高等部の3校に通う生徒14人と、市議19人。前半は増田貴義長の挨拶に続き、本城隆志・議会活性化推

進会議委員長の司会進行のもと、映像を交えて3校の生徒がそれぞれ学校紹介。そのあと、混合の3グループに分かれてワークショップ形式の討論をスタートさせた。

小松原一哉(自民)・乾秀子(公明)・土居一豊(城陽絆)3市議をグループリーダーとした討論は「住みよい魅力あるまちづくり」「議員に期待すること」をテーマに、生徒たちが大きな模造紙に、自分の意見を付箋に書き込んで貼り付け、それぞれの代表生徒がまとめて発表した。

そして後半は、本会議場に移動して、14人の生徒が欠席者の通告内容も含めて個人質問。市議らは、慣れない理事者サイドの席に座って答弁に備えた。

府立城陽支援学校の生徒からは「山城青谷駅前から学校までの通学路を安全に歩けるよう整備してほしい」「清掃作業の体験の場を提供してほしい。実習先の企業を紹介してほしい」と切なる願いが寄せられた。市議らは「通学路整備はPTA要望として上げてほしい。我々も必ず支援する」「今は青谷コミセンや中村会館の清掃をされているが、市の福祉保健部に声をかけて活躍の場を広げてもらいます」と前向きな答弁を行った。



本会議場に着席した「高校生議員」に増田議長が励ましの挨拶

なお、本会議場では、市選管や市明るい選挙推進協議会の委員や学校関係者、保護者らが、市議と高校生のやりとりを熱心に傍聴。18歳選挙権を目前に控えた生徒にとって、意義深い取り組みと、高い評価を与えていた。

また、城陽高校の生徒からは「議会などがいない時、議員はどんなことをしているのか」と、「一瞬ドキッとする質問があり、市議は、政党に所属している者は、党の活動もあるが、地域活動を主にしている、皆さんも困り事

があれば、聞かせてほしい」と無難に回答。西城陽高校の生徒からは「市の大きなイベントが広く知られないまま、終わってしまっている。もっとSNSの活用を」といった提言も寄せられた。



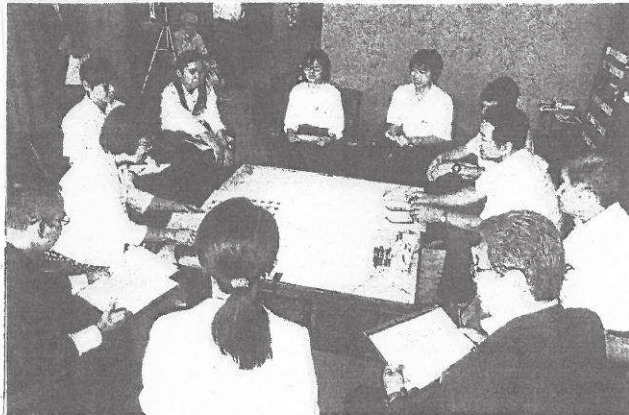
グループ討論で市議や他校の生徒との距離を縮める高校生たち

「道路、駅前整備課題」で一致

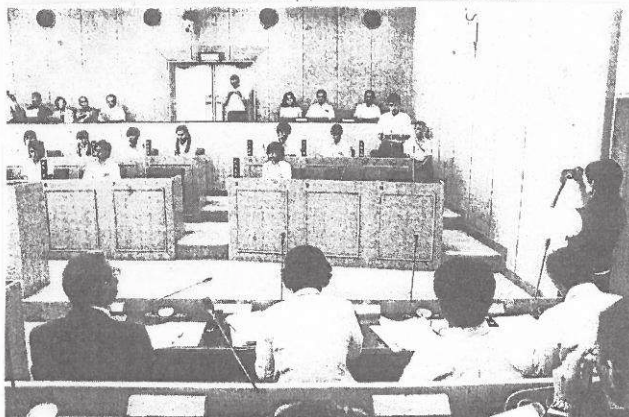
府内初

城陽市議会 VS 高校生

相模原事件で差別、偏見増長



活発に意見が飛び出したグループ意見交換会



本会議場での質疑応答

アウトレットで人口増えますか

城陽市議会は21日、議場などを会場に市内の3府立高校生と「意見交換会」を開いた。京都府内では初の試みで、全国的にも珍しい。意欲的な取り組みとあって注目を集めたが、高校生からは城陽市の道路事情の悪さや交通の不便さ、駅前整備の欠如などが人口の減少につながっているなどの的確な指摘があり、議員側が「20人の全議員が同じ意見。市長に伝え、実現に向け頑張る」と意気投合する場面も。

【藤本博】

市議会は、市民から遠い存在にあった議会の改革を2012年2月に開催した「議会懇談会」を機に着手。以降「議会の見える化」「議論の活性化」を進め、13年3月の「市議会基本条例」策定につなげ、年間2回の議会報告会を市民を対象に開いてきた。

16年6月、選挙権が20歳から18歳に引き下げられる公職選挙法の改正があり、直後の参院選挙で18歳の投票率が51・28%と極めて高い数値を示した。こうした動きに呼応し、「城陽市議会活性化推進会議」（本城隆志委

員長・委員6人）の中で今年5月以降議論を重ね、実現にこぎつけたもの。この日参加したのは、議員19人（1人欠席、市内にある府立城陽支援学校、府立城陽高校、府立西城陽高校の生徒14人。生徒会役員は1人。生徒会役員のほか、自ら積極的に手を挙げた生徒もいた。当初は20人対20人の予定だったが、台風5号の影響で日程が延期となったため、参加者はやや少なくなった。委員会室に全員が集合、学校紹介などのあと、3グループに分かれ「グループ別意見交換

会」を実施。その後再び委員会室に集まり、交換会の内容発表を生徒が行った。最後は議場で生徒が1人ひとり議員席から質問や意見を言い、議員側は「皆さんの意見を反映させる形で調査、研究したい」と日頃の理事者側答弁をほうほうと交換会では、生徒側から「歩道が狭く、子どもたちが安全に通れない道が多い」「いくら城陽市をアピールしても、道路整備を進めなければ誰も来ない」「市内に6駅もあるが、整備をして、駅前で買い物ができるなど便利にならないければ」などインフラ整備の遅れを指摘する声が相次いだ。「きょう近鉄寺田駅から市役所まで歩いてきたが、歩道が狭くて危険」と実感のこもった声も。

アウトレットモールの計画には関心が高く「アウトレットなど開発で人口が増えるのか、活性化するのか、環境への配慮も必要では」と疑問を投げかける指摘があった。支援学校の生徒からは「相模原の障がい者施設における殺傷事件以降、ネットなどで障がい者差別の書き込みが増えている。差別や偏見をなくするため、こうした交換会の機会を増やしてほしい」と深刻な問題も投げかけられた。

こうした高校生の意見、疑問などに対し、議員側は「皆さんの意見を反映させる形で調査、研究したい」と日頃の理事者側答弁をほうほうと交換会では、生徒側から「歩道が狭く、子どもたちが安全に通れない道が多い」「いくら城陽市をアピールしても、道路整備を進めなければ誰も来ない」「市内に6駅もあるが、整備をして、駅前で買い物ができるなど便利にならないければ」などインフラ整備の遅れを指摘する声が相次いだ。「きょう近鉄寺田駅から市役所まで歩いてきたが、歩道が狭くて危険」と実感のこもった声も。

アウトレットモールの計画には関心が高く「アウトレットなど開発で人口が増えるのか、活性化するのか、環境への配慮も必要では」と疑問を投げかける指摘があった。支援学校の生徒からは「相模原の障がい者施設における殺傷事件以降、ネットなどで障がい者差別の書き込みが増えている。差別や偏見をなくするため、こうした交換会の機会を増やしてほしい」と深刻な問題も投げかけられた。

高校生・高等部生との意見交換会報告書

平成29年(2017年)11月

編集 城陽高校・西城陽高校・城陽支援学校・議会活性化推進会議

発行 城陽市議会

〒610-0195 京都府城陽市寺田東ノ口16、17番地

電話 0774-56-4000

Eメール gikai@city.joyo.lg.jp